C－2500L取扱説明書の訂正・追加のお知らせ

<table>
<tr><th>頁</th><th>訂　正　前</th><th>訂　正　後</th></tr>
<tr><td>P37</td><td>シャッターボタンの押し方説明文の訂正
軽く押した状態（半押し）
・ピントが固定されます。
・ファインダー横の緑ランプが点灯します。

「半押し」した状態をさらに押し込む（押し切り）
・シャッターボタンを押し切ると露出が固定され、ファインダー横の緑ランプが点滅し、液晶モニタに撮影した画像が表示されます。（表示の有無、時間は設定することが可能です。）</td><td>軽く押した状態（半押し）
・ピントが固定されます。
・ファインダー横の緑ランプが点灯します。
・ 露出が固定されます。

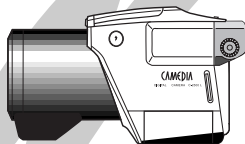
「半押し」した状態をさらに押し込む（押し切り）
・シャッターボタンを押し切ると、ファインダー横の緑ランプが点滅し、液晶モニタに撮影した画像が表示されます。（表示の有無、時間は設定することが 可能です。）</td></tr>
<tr><td>P37</td><td>メモの説明文の訂正
中央重点測光ではシャッターボタンの押し切りで固定されます。</td><td>中央重点測光でもシャッターボタンの半押しで固定されます。</td></tr>
<tr><td>P41、48</td><td>露出の固定に関する訂正
ピントが固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。</td><td>ピントと露出が固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。</td></tr>
<tr><td>P59、72、73、79、101、103、105、110、111、161</td><td>露出の固定に関する訂正
シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。</td><td>シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせ露出を固定します。</td></tr>
<tr><td>P79</td><td>2の説明文の訂正
ファインダー横の緑ランプが点灯します。</td><td>ファインダー横の緑ランプが点灯しピントを合わせると同時に露出を合わせ固定します。</td></tr>
<tr><td>P79</td><td>3の説明文の訂正
シャッターボタンを押し切ります。
シャッターボタンを押し切ったときに、露出を固定します。</td><td>シャッターボタンを押し切ります。</td></tr>
<tr><td>P82</td><td>露出の固定に関する訂正
補正値が決まったら、シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせます。</td><td>補正値が決まったら、シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせ露出を固定します。</td></tr>
<tr><td>P82</td><td>注意の訂正
露出補正値は電源をOFFにしても保存されます。再びご使用になる際、露出補正値を確認してください。</td><td>露出補正値は電源をOFFにすると±0EVにリセットされます。</td></tr>
<tr><td>P107</td><td>メモにおける表の訂正
<table><tr><td>ISO</td><td>100</td><td>200</td><td>400</td></tr><tr><td>長時間シャッター</td><td>2“</td><td>4“</td><td>8“</td></tr></table></td><td><table><tr><td>ISO</td><td>100</td><td>200</td><td>400</td></tr><tr><td>長時間シャッター</td><td>8“</td><td>4“</td><td>2“</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>P114</td><td>露出の固定に関する訂正
設定した距離（P112）にピントが固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。</td><td>設定した距離（P112）にピントが固定されると同時に露出も固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。</td></tr>
</table>

頁	訂　正　前	訂　正　後
P115	**シャープネス（鮮鋭度）を指定するタイトルおよび説明文を訂正** **シャープネス（鮮鋭度）を指定する** シャープネス（鮮鋭度）を指定します。シャープネス（鮮鋭度）とは画像の切れ味のことです。「NORMAL」と「SOFT」の2種類から選択することができます。 「NORMAL」は画像の切れ味がシャープです。プリントなどの鑑賞用に適しています。「SOFT」は素直な輪郭を再現できます。パソコンなどで画像処理するときなどに適しています。状況に応じて使い分けてください。	**シャープネス（鮮鋭度）およびコントラスト（階調再現）を指定する** シャープネス（鮮鋭度）およびコントラスト（階調再現）の強弱を組み合わせた3つのモード「NORMAL1」、「NORMAL2」、「SOFT」から選択することができます。 「NORMAL1」は画像の切れ味がシャープで、かつコントラストの高いメリハリのきいた画像を撮影することができます。 「NORMAL2」は画像の切れ味がシャープですが、コントラストをおさえた画像を撮影することができます。 「SOFT」は素直な輪郭を再現し、かつコントラストをおさえた画像を撮影することができます。 「NORMAL1」「NORMAL2」はモニタやプリントなどの鑑賞用に、「SOFT」はパソコンなどで加工するときなどに適しています。状況に応じて使い分けてください。
P115	**操作方法4の訂正** 十字ボタンの ◁ ▷ キーで、「NORMAL」または「SOFT」から選択します。 設定をキャンセルするには [ ] メニューボタンを押します。	十字ボタンの ◁ ▷ キーで、「NORMAL1」、「NORMAL2」または「SOFT」から選択します。 設定をキャンセルするには [ ] メニューボタンを押します。 NORMAL 1　NORMAL 2　SOFT
P115	**操作方法5の訂正** 「OK」ボタンを押します。 シャープネスが設定され、カーソルが に戻ります。	「OK」ボタンを押します。 シャープネスおよびコントラストが設定され、カーソルが に戻ります。
P131	**リセットされる項目と設定値の一覧の訂正および追加** ・シャープネス ：ノーマル	・シャープネス 、コントラスト：NORMAL1
P111		**追　加** **スローシンクロON／OFF切り替え方法の説明文追加** **スローシンクロを設定する** スローシンクロのONまたはOFFを設定できます **操作方法** **1 モード選択ダイアルを「P」、「A」または「M」に合わせます。** **2 [ ] メニューボタンを押します。** **液晶モニタにメニューが表示されます。** **3 十字ボタンの ▽△ で、 SLOW を選択します。** **4 十字ボタンの ◁ ▷ で、「ON」（スローシンクロON）、「OFF」（スローシンクロOFF）を選択します。** SLOW　OFF　ON **5 「OK」ボタンを押します。** スローシンクロのON／OFFが設定されます。 スローシンクロONが設定されているときにはモード選択ダイアル「P」または「A」でコントロールパネルのシャッター速度表示が点滅します。スローシンクロOFFが設定されているときには点滅せず点灯となります。

OLYMPUS®

CAMEDIA

デジタルカメラ

C-2500L

機能追加・変更　補足取扱説明書

1．はじめに

本書は同梱の取扱説明書の内容に対し、新たに機能追加・変更された項目を補足するものです。
取扱説明書の内容の一部を本書におきかえてご利用くださいますようお願い申し上げます。

特　長

1 中央重点測光モードでシャッターボタン半押しにより露出が固定されます。
ねらいの露出にあわせやすくなり、撮影の幅が広がります。

2 スローシンクロ機能が追加されました。
「P」、「A」モードで夜景をバックにしたシーンが撮影可能となりました。

3 コントラストの選択ができるようになりました。
表現の幅が広がりパソコンでの加工も行いやすくなります。

4 オートホワイトバランスのシーン判別能力の精度を高めました。
屋外シーンでより自然な色合いになります。

5 露出補正の設定をパワーオフに連動してリセット（±0EV）するようにしました。
露出補正したままのリセットし忘れによる失敗を防ぎます。

2. 追加／変更内容

2-1. 露出の固定方法について

モード選択ダイアル｢P｣または｢A｣のとき、中央重点測光、スポット測光いづれもシャッターボタン半押しで露出の固定およびフォーカスロックをします。
フラッシュ調光については、中央重点測光ではシャッターボタン押し切りのときにプリ調光のためのフラッシュ発光を行い、スポット測光ではシャッターボタン半押しのときにプリ調光のためのフラッシュ発光を行います。

	シャッターボタン半押し	シャッターボタン押し切り
中央重点測光	露出の固定、フォーカスロック	フラッシュプリ調光、撮影処理
スポット測光	露出の固定、フォーカスロック、フラッシュプリ調光	撮影処理

2-2. スローシンクロについて

モード選択ダイアル｢P｣または｢A｣のとき、スローシンクロを設定できます。スローシンクロモードは撮影モード時（モードダイアル｢P｣、｢A｣）のメニュー（メニューの2／4ページ上から2行目）でON／OFFを切り替えます。

SLOW	OFF	ON

1 スローシンクロOFF

スローシンクロOFFを選択し、かつ内蔵フラッシュをポップアップまたはFL-40を接続した場合には、モード選択ダイアル｢P｣または｢A｣のとき低輝度下では手ぶれを起こさないようなシャッター速度で撮影が行われます。

2 スローシンクロON

モード選択ダイアル｢P｣または｢A｣においてスローシンクロONを選択した場合は、内蔵フラッシュをポップアップまたはFL-40を接続しても、被写体の明るさに応じてシャッター速度が長秒時で撮影されます。従いまして、この場合には内蔵フラッシュやFL-40を発光させても、暗い状況下では手ぶれが発生する恐れがありますので、カメラを三脚などに固定して撮影することをお勧めします。

2-3．コントラスト(階調再現)について

撮影画像のコントラスト(階調再現)を選択できます。
コントラストの強／弱を選択可能で、選択は撮影モード時(モードダイアル「P」、「A」、「M」)のメニュー(メニューの3／4ページ1行目)でできます。

コントラストの選択は、シャープネスの組合せでの選択となります。

	コントラスト	シャープネス
NORMAL1	コントラストが強い	エッジ強調あり
NORMAL2	コントラストが弱い	エッジ強調あり
SOFT	コントラストが弱い	エッジ強調なし

NORMAL1 ･･･ 画像の切れ味がシャープでかつコントラストの高いメリハリのきいた画像を撮影することができます。
NORMAL2 ･･･ コントラスト(階調再現)幅が広く、高輝度部•低輝度部の「白とび」•「黒つぶれ」が発生しにくくなります。
SOFT ････････ 素直な輪郭を再現しかつコントラストをおさえた画像を撮影することができます。

2-4．露出補正のリセットについて

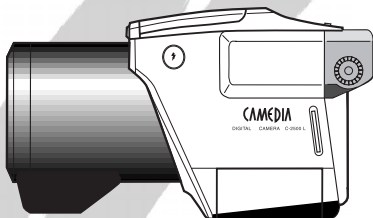
パワーオフすると、露出補正がリセット(±0EV)されます。

OLYMPUS®

CAMEDIA

デジタルカメラ

C-2500L

取扱説明書

■ このたびは、オリンパス デジタルカメラをお買い上げいただき、ありがとうございます。
■ ご使用前にこの説明書をお読みください。
■ 大切なもの(海外旅行など)をお撮りになる前には、試し撮りをすることをおすすめします。

はじめに

このたびはオリンパス デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。

本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCIルールの限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

本取扱説明書をお読みになる前に

○本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。

○本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。

○本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。

○本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

○本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

○本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

オリンパス光学工業株式会社

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。

MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。

CompactFlashおよびCFは米国SanDisk社の商標です。

その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格とは

カメラファイルシステム規格「Design rule for Camera File system」です。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告	**この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**

⚠注意	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。**

⚠警告

1. **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して1m以内の距離で撮影しないでください。**
2. **日光および強い光に向けて本製品を使用しないでください。目に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。**
3. **可燃性ガスおよび爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。**
4. **この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生のおそれがあります。**
   - **誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。**
   - **電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。**
   - **目の前でフラッシュが発光し、視力に回復不可能な程の障害を起こす。**
   - **カメラの動作部でけがをする。**

5. 電池の液漏れ､発熱､発火､破裂により､火災やけがのおそれがあります。
  - このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
  - 電池を火の中に投入、加熱、ショート、分解をしないでください。
  - 古い電池と新しい電池、種類の異なる電池、異なるメーカーの電池を混ぜて使わないでください。
  - 充電できないアルカリ電池を充電しないでください。
  - 取り外した電池は幼児、子供の手の届かないところに保管してください。誤って飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
  - 電池の＋－の極性を逆に入れないでください。
6. 湿気やほこりの多い場所にカメラを保管しないでください。火災や感電の原因となります。
7. フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
8. 万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、速やかに電池を抜き、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
9. リチウムコイン電池の取り扱いについて
  - リチウムコイン電池はお子様の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと大変危険です。万一お子様が飲み込んだ場合には化学物質による被害を受ける危険性があります。すぐに医師に相談するか、あるいは、下記に電話して指示を受けてください。

財団法人　日本中毒情報センター
つくば　中毒110番
TEL　0298-52-9999
（12/31～1/3を除く、9:00～17:00まで受付）
大阪　中毒110番
TEL　0990-5-02499（24時間受付、年中無休）

  - 金属製のピンセットなどでつかまないでください。ショートするおそれがあり危険です。
  - 分解や加熱をしないでください。破裂する危険があります。

⚠注意

1. 異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、最寄りのサービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因になります。
2. 本製品の分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。
3. 長期間使用しない時は電池を取り外しておいてください。電池の発熱や液漏れがおこり、火災やけが、周囲が汚れる原因になります。
4. 電池の液漏れが起こったら使用しないでください。放っておくと、火災や感電の原因となります。販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。
5. 濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。
6. 異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となるところがあります。
7. 電池を使って長時間連続使用したあとは、電池をすぐに取り出さないでください。やけどの原因となることがあります。

お取り扱いについて

●本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で本製品を使用または保管した場合、動作不良や故障の原因となりますので絶対に避けてください。

・直射日光下や夏の海岸など
・高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
・砂、ほこり、ちりの多い場所
・火気のある場所
・揮発性物質のある場所
・冷暖房器、加湿器のそば
・水に濡れやすい場所
・振動のある場所
・自動車の中

●カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。

●レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。ＣＣＤの褪色・焼きつきを起こすことがあります。

●長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。

●三脚につける場合、デジタルカメラを回して取り付けないでください。

●別売のコンバージョンレンズを使用するときは、ゆるみのないようにしっかりとレンズに固定して使用してください。

●本体の電気接点部には触れないでください。

●フラッシュを短時間に何度も発光させると、発光部の温度があがることがありますので、直接手を触れないでください。

●海外では地域によりご使用いただけないことがあります。

電池について

●電池は１０００mAh以上の単３型ニッケル水素電池またはニッカド電池を４本使用します。付属のオリンパス製ニッケル水素電池をおすすめします。

●アルカリ電池は使用できますが、電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、付属のニッケル水素電池に比べて寿命が極端に短い場合があります。また低温時は使えません。

●単３マンガン電池、単３リチウム電池、CR-V3リチウム電池（当社LB-01を含む）は使用できません。

●長期の旅行や海外でご使用になる場合は、予備の充電済みニッケル水素電池またはニッカド電池をご用意になることをおすすめします。

●ニッケル水素電池は繰り返しご使用いただけます。ただし、化学反応によりエネルギーを供給するため特性は徐々に劣化します。B-01/B-02シリーズをC-2500Lでお使いの場合、充電回数は約300回です。（使用条件により変動します。）

●ニッケル水素電池およびニッカド電池をご使用になる際は、必ず指定された充電器で４本すべての電池を同時にかつ完全に充電してからお使いください。なお、購入したて、あるいは１ヵ月以上未使用のニッケル水素電池をご使用の場合、電池特性により完全に充電できないことがあります。この時は一時的に電池寿命が短くなりますが、充放電を繰り返すうちに回復します。

●誤った使い方をすると液漏れ・発熱・破損の原因になります。また、汗や油汚れは接触不良の原因となります。汚れは乾いた布でしっかりと拭き取り、挿入の際は、＋－の向きに注意して入れてください。

●電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池をご使用になる際は、電池、充電器などの説明書をよく読んで、正しくお使いください。

●シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。

液晶画面とバックライトについて

●本製品のコントロールパネル、及び液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライトの蛍光管には寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（修理は有料となります。）

●一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。

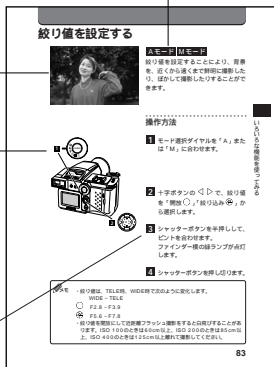
●本製品の液晶画面は精密度の高い技術でつくられていますが一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶画面の構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。

目　次

本書のみかた

この取扱説明書は、6つの章から構成されています。
はじめて本製品をご使用になる方は、「準備をしましょう」と「使ってみましょう」の章をお読みになれば、基本的な撮影ができるように構成されています。

本書の表記について

本書では、次のように説明しています。

このページは例です。

本書では以下の記号が使われています。

注意　注意事項を記載しています。

メモ　知っておくと便利な情報などを記載しています。

ランプや表示が点灯していることを示します。

ランプや表示が点滅していることを示します。

C-2500Lの主な特徴

・2/3インチ250万画素（CCD総画素数）と高性能光学ズームレンズの組合せでクラス最高レベルの画像が得られます。

・リムーバブルメモリのスマートメディア（3V/3.3V）とコンパクトフラッシュの両方を同時にセットして枚数を気にせず撮影ができます。（P.40）

・ピント、絞り、感度、露出補正、ホワイトバランスなど各種マニュアルモードで独創性のある撮影を楽しめます。

・SQモードでの撮影はTruePic処理により高画質の画像が得られます。

・外部フラッシュが接続できます。専用外部フラッシュFL-40（別売）をご使用いただくと、高度なフラッシュ撮影もできます。

・DPOF対応プリンタやDPOFシステムでプリントサービスを行っているお店などにカードをお持ちになると、プリント予約を行った画像を自動的にプリントすることができます。

・撮影した画像をテレビに写し、楽しむこともできます。(NTSC方式)＊

＊海外では地域によりご利用になれません。

DPOF対応機器でのプリント時の注意

DPOF対応機器でプリントを行なう場合は次のことに注意してください。

・他のDPOF対応機器で設定されたDPOF予約の内容を、C-2500Lで変更することはできません。予約をした機器で変更してください。

・他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、C-2500Lで新たにDPOF予約をおこなうと、以前に予約した内容は消去されることがあります。

・カード間で画像をコピー（P.133）しても、DPOF予約はカードにコピーされません。コピー先のカードで再度DPOF予約をおこなってください。

他の機器で撮影・記録された画像ファイルの扱いについて

C-2500Lが対応していない形式で記録された画像は、全く表示されないか、または小さく表示されることがあります。この場合、これらの画像については次の操作ができません。

・拡大表示
・プロテクト
・消去（1コマ／全コマ）
・コピー
・プリント予約

1

準備をしましょう

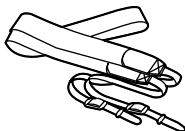
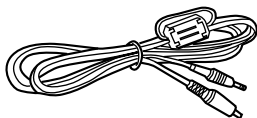
箱の中を確認しましょう

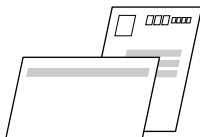
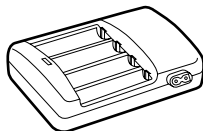
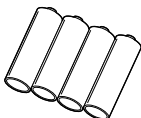
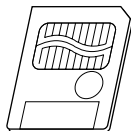
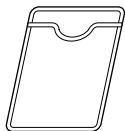
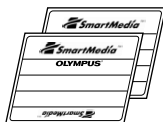
箱の中の付属品はすべてそろっていますか。
万一、付属品が不足していたり、破損している場合はお買上げ販売店までご連絡ください。

カメラ本体

レンズキャップ

ストラップ（レンズキャップホルダ付き）

リチウムコイン電池:CR2025(1個)

ビデオケーブル

- **C-2500L取扱説明書（本書）**
- **充電器取扱説明書**
- **スマートメディア取扱説明書**

保証書／愛用者登録ハガキ

ニッケル水素電池充電器
および電源コード

単3ニッケル水素電池（4本）

8MB スマートメディア（1枚）

スマートメディア用静電気防止ケース

スマートメディア用ラベル（2枚）

スマートメディア用ライトプロテクト
シール（4枚）

※コンパクトフラッシュは同梱しておりません。市販のコンパクトフラッシュをお求めください。

各部の名称

カメラ本体

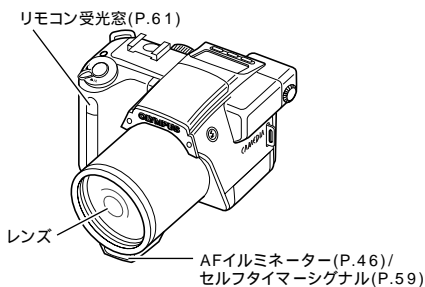
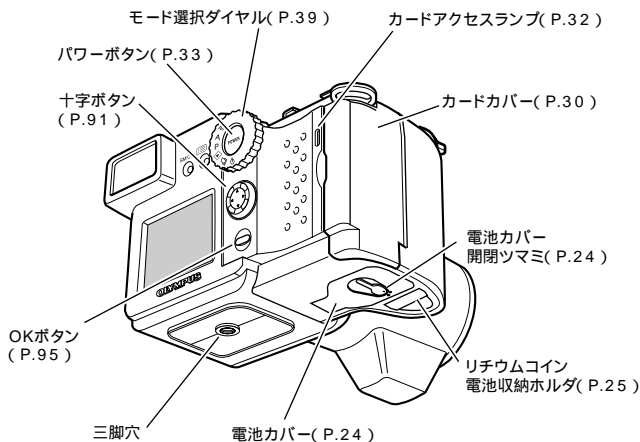
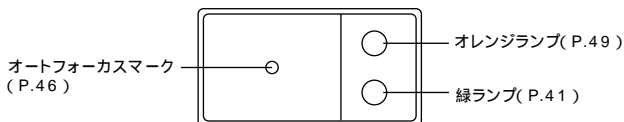
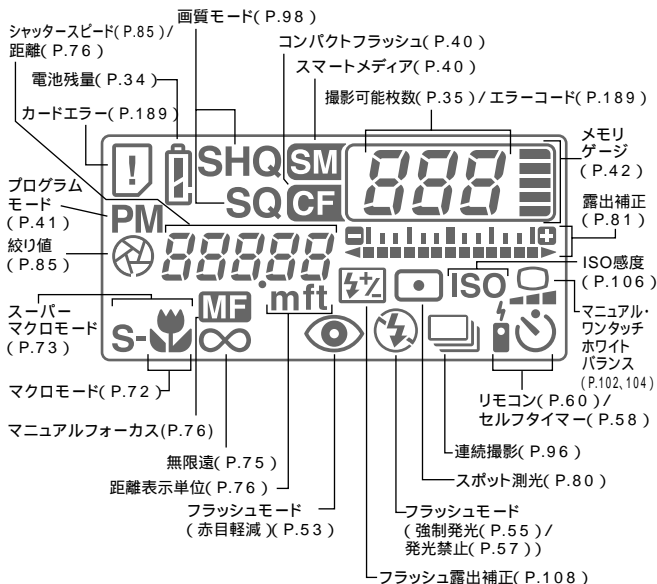
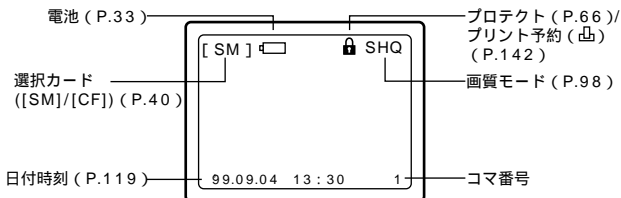
コントロールパネル（P.20）
フラッシュ（P.49）
スポット測光ボタン（P.80）／
プロテクトボタン（P.66）
ホットシュー（P.148）
シャッターボタン（P.37）
フラッシュ切替ボタン
（P.51）／
情報表示ボタン（P.130）
ズームレバー（P.48）
フォーカス（P.72）/
1コマ消去ボタン
（P.67）
ファインダー（P.19）
＋/－ボタン／
スクロールボタン
（P.65、92）
液晶モニタ（P.20）
ストラップ取り付け部
（P.21）
SM/CF切替ボタン（P.40）
メニューボタン（P.93）

モード選択ダイヤル（P.39）
カードアクセスランプ（P.32）
パワーボタン（P.33）
十字ボタン
（P.91）
カードカバー（P.30）
電池カバー
開閉ツマミ（P.24）
OKボタン
（P.95）
リチウムコイン
電池収納ホルダ（P.25）
三脚穴
電池カバー（P.24）

ファインダー

コントロールパネル

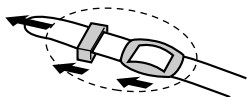
シャッタースピード（P.85）／
距離（P.76）
画質モード（P.98）
コンパクトフラッシュ（P.40）
スマートメディア（P.40）
電池残量（P.34）
撮影可能枚数（P.35）／エラーコード（P.189）
カードエラー（P.189）
メモリゲージ（P.42）
プログラムモード（P.41）
露出補正（P.81）
絞り値（P.85）
ISO感度（P.106）
スーパーマクロモード（P.73）
マニュアル・ワンタッチホワイトバランス（P.102、104）
マクロモード（P.72）
リモコン（P.60）／
セルフタイマー（P.58）
マニュアルフォーカス(P.76)
連続撮影（P.96）
無限遠（P.75）
スポット測光（P.80）
距離表示単位（P.76）
フラッシュモード（赤目軽減）（P.53）
フラッシュモード（強制発光（P.55）／発光禁止（P.57））
フラッシュ露出補正（P.108）

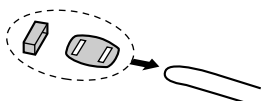
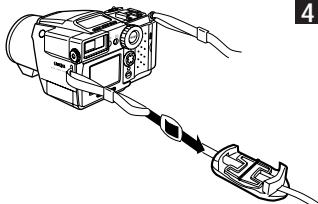
SHQ SM
SQ CF
PM
888
88888
MF mft
S-
ISO

液晶モニタ

ストラップを取り付けましょう

ストラップの取り付け方

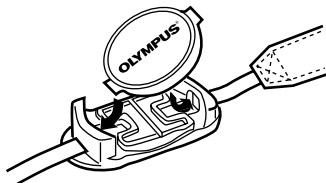
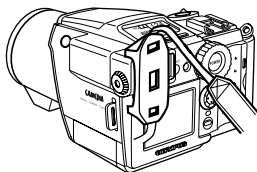
カメラ本体にストラップを取り付けましょう。

操作方法

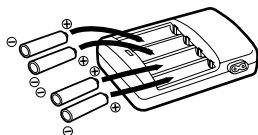
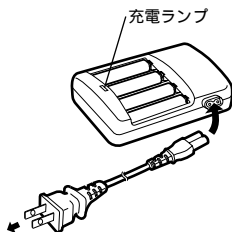
1 **金具をはずします。**

2 **レンズキャップホルダを取り付けます。**

3 **1ではずした金具を取り付けます。**

4 **カメラ本体のストラップ取り付け部と金具に、ストラップを通します。**

注意 **上の図にしたがってストラップは正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れて本体を落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。**

レンズキャップホルダの使い方

レンズキャップは図のようにレンズキャップホルダに装着します。

セルフタイマーやリモコンを使うときには、逆入射光の影響を防止するためレンズキャップホルダをファインダーに装着して撮影します。
図のようにレンズキャップホルダをファインダーに装着してください。

充電器で電池を充電しましょう

付属の充電器で、付属のニッケル水素電池を充電します。
充電器の取り扱いについては、付属の取扱説明書をお読みください。

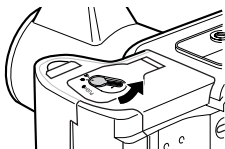
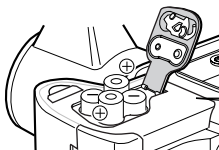
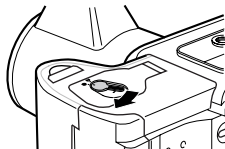
操作方法

1 充電器にニッケル水素電池をセットします。

2 電源プラグを接続し、家庭用コンセントに差し込みます。

充電が始まると、充電ランプが点灯します。
充電が終了すると、充電ランプが消えます。
約3時間で充電されます。

電池を入れましょう

電池を入れます(主電池)

付属の単3ニッケル水素電池をご使用ください。
マンガン電池、リチウム電池は使用できません。

操作方法

1 電池カバーのPUSH●を押しながら開閉ツマミを回して、に合わせ、指の腹でカバーを開けます。

2 電池の向きを極性表示に合わせて入れます。

3 電池カバーを閉じて、電池カバーの開閉ツマミをに合わせます。

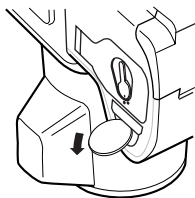
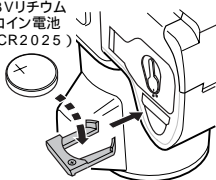
注意

- **電池カバーを開けるときは電源が切れていること（コントロールパネル消灯）を確認してください。カメラの動作中に電池カバーを開けると、設定モードや時計がリセットされたり、撮影画像が記録されないだけでなく、記録済の内容が破壊される恐れがあります。**
- **ニッケル水素電池、ニッカド電池はカメラに入れる前に充電しておいてください。**
- **電池カバーの開閉時は爪を傷つけないよう十分ご注意ください。**

リチウムコイン電池を入れます

C-2500Lでは内蔵時計の保持のために、3Vリチウムコイン電池(CR2025)を使用します。

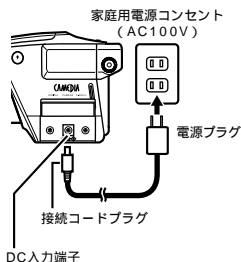
操作方法

1 **ペンや硬貨などを、リチウムコイン電池収納ホルダの丸穴に引っかけ、リチウム電池収納ホルダを引き出します。**

⊕マークのある面に
電池をいれます。

2 **リチウムコイン電池の＋側を上にして電池を入れ、ホルダを閉じます。**

注意 **リチウムコイン電池は必ず入れるようにしてください。**
リチウムコイン電池を入れないと、主電池交換時に時計がリセットされてしまいます。時計の合わせかたは、P.119をお読みください。

AC アダプタを使う（別売）

別売の専用アダプタ（C-7AC）を使って、家庭用電源（AC-100V）から電源をとることができます。

操作方法

1 **カメラの電源が切れていることを確認し、ACアダプタの電源プラグを家庭用電源コンセントに差し込みます。**

2 **カメラのDC入力端子に接続コードプラグを接続します。**

注意 **ACアダプタを長時間接続するとACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。**

メモ **C-6ACのACアダプタもご使用いただけます。**

⚠警告

火災・感電・やけどのおそれがあります。

- **専用のACアダプタ(C-6AC/C-7AC、EIAJ規格・極性統一型プラグ付)以外は絶対に使わないでください。カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた障害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。**
- **電源は必ずAC100Vをご使用ください。**
- **電源プラグの差し込みが不完全な状態で使用しないでください。**
- **濡れた手で電源プラグの抜き差しは絶対にしないでください。**
- **万一ACアダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常が発生した場合、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて使用を中止してください。また、ただちに販売店または当社サービスステーションにご相談ください。**
- **ACアダプタの接続コードを抜き差しする際は、必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。**
- **最初に電源プラグをコンセントに差し込み、次にカメラに接続コードプラグを接続し、電源を入れてください。電源を切った後は接続コードプラグをカメラから抜き、次に電源プラグをコンセントから抜いてください。**
- **ACアダプタをコンセントから抜くときは、必ずACアダプタ本体を持って抜いてください。ACアダプタのコードを無理に引っ張ったり、折り曲げたり、ねじったり、継ぎ足したりすることは絶対にやめてください。**
- **ACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があったりした場合は、すぐにお買い上げの販売店にご相談ください。**
- **使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから外してください。**
- **別売の専用アダプタ(C-6AC/C-7AC)は日本国内用です。海外ではご使用になれません。**

2

使ってみましょう

スマートメディア／コンパクトフラッシュをセットしましょう

C-2500Lでは、スマートメディアとコンパクトフラッシュの両方または、どちらかをセットすることができます。
セットしたスマートメディア、コンパクトフラッシュに撮影した画像を保存します。

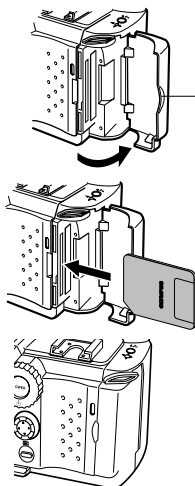
スマートメディアをセットしましょう

C-2500Lに付属のスマートメディアをセットします。
C-2500Lではオリンパス製または市販の3V（3.3V）カードをご使用できます。市販の3V（3.3V）カードをご使用の場合は、必ずデジタルカメラ側で初期化してください。
市販の5Vカードは使用できません。

操作方法

1 カードカバーを開きます。
この部分を持って開けます。

2 スマートメディアの接点をレンズ側に向けて、手前のスロットに奥まで差し込みます。
スマートメディアの切り欠きを下にして、必ず図と同じ向きに差し込んでください。

3 カードカバーを「カチッ」という音がするまで閉じます。

●取り出し方

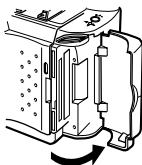
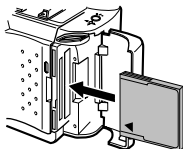
差し込まれたスマートメディアをさらに押し込むとスマートメディアが手前に出て取り出せます。

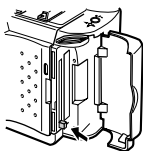
注意
- **押し込まずにそのままスマートメディアを引き抜くことは、絶対にしないでください。**
- **コンパクトフラッシュの挿入口にはスマートメディアを差し込まないでください。端子を傷めることがあります。**

コンパクトフラッシュをセットしましょう

C-2500Lにコンパクトフラッシュをセットします。
C-2500Lでは市販のコンパクトフラッシュを使うことができます。

操作方法

1 カードカバーを開きます。
この部分を持って開けます。

2 コンパクトフラッシュを、矢印が描かれた方を手前にして、奥のスロットに奥まで差し込みます。

3 カードカバーを「カチッ」という音がするまで閉じます。

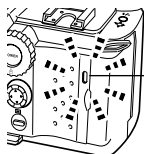
●取り出し方

イジェクトボタンを押すとコンパクトフラッシュが出てきます。

注意

- **イジェクトボタンを強く押すとコンパクトフラッシュが勢い良く飛び出すことがあります。**
- **カードの表裏を間違えないようにして、まっすぐに差し込んでください。無理に押し込むとコンパクトフラッシュが壊れることがあります。**

メモ
・スマートメディアとコンパクトフラッシュの両方をセットしている場合に、使用するカードを切り替える方法は、P.40を参照してください。
・市販のスマートメディアとコンパクトフラッシュを使用する場合は、必ずC-2500Lでフォーマットしてください。

⚠注意

・カードアクセスランプ点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを取り出したり、電源プラグを抜いたりしないでください。カードやカード内の撮影画像が破壊されることがあります。

・カードは精密機器です。無理な力や衝撃を与えないでください。

・カードの接触面には直接手を触れないでください。

※詳しくはカードの説明書をお読みください。

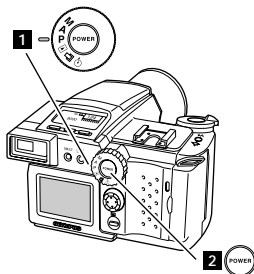
電源を入れましょう

カードがセットできたら、レンズキャップをはずしてからカメラの電源を入れて、電池残量と撮影可能枚数を確認しましょう。

コントロールパネル

撮影可能枚数

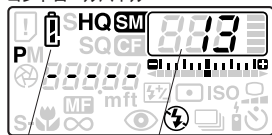
電池残量

操作方法

1 モード選択ダイヤル(P.39)が「P」になっていることを確認します。

「P」になっていない場合は、ダイヤルを回して「P」にします。

2 パワーボタンを押します。

電源が入ると選択したカードが差し込まれているかカメラが自動的にチェックします。

コントロールパネルに電池残量、撮影可能枚数などが表示されます。

メモ　カメラの電源を入れたら、まず、日付と時刻を設定しましょう。日付、時刻の設定方法については、P.119を参照してください。

使ってみましょう

●電池残量について

電池残量の目安は次のように表示されます。

が点灯（自動的に消えます）

電池の残量は十分です。撮影できます。

が点滅

電池の残量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。
撮影は可能ですが、途中で電池が切れる恐れがあります。

が点灯（自動的に消えます）

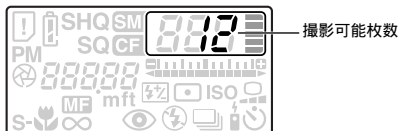
電池の残量がなくなりました。新しい電池と交換してください。

メモ

- 「P」「A」「M」など、撮影ができる状態で何も操作をしないまま設定時間を経過するとスタンバイ状態に切り替わります。コントロールパネルの表示が消え、電池の消耗を抑えます。スタンバイ状態に切り替わる時間はメニューで変更することができます。（P.118）
- スタンバイ状態の時はズームレバーを操作したり、シャッターボタンを半押しすることにより、通常の状態に戻ります。
- スタンバイ状態が続くと、自動的に電源がOFF（スリープ）になります。パワーボタンを押すと再び電源が入ります。（P.33）
- 撮影前に日時を設定しておきましょう。設定方法は『日付／時刻を設定する』（P.119）を参照してください。
- 長期の旅行、大事な行事、寒冷地での撮影などには充電済みのニッケル水素電池のご使用をお勧めします。同梱の充電器とニッケル水素電池をご使用ください。
- 電池の寿命末期に撮影した場合、撮影後または電源を入れたときにコントロールパネルのコマ番号が点滅することがあります。このような場合は撮影が正常に行なわれておりません。新しい電池に交換のうえ再度撮影を行なってください。

注意　電池の種類や状態、カメラの動作環境によって、電池残量マークの出るタイミングは変わります。

●撮影可能枚数について

撮影できる状態で、電源を入れるとコントロールパネルに撮影可能枚数が表示されます。

・撮影可能枚数（8MBスマートメディア使用時）
撮影可能枚数は設定した画質モード（P.98）、またはカードの残容量によって変わります。

画質モード	圧縮方式	記録画素数	撮影可能枚数
SHQ	TIFF	1712×1368	1枚
SHQ	JPEG	1712×1368	4枚以上
HQ	JPEG	1712×1368	13枚以上
SQ	JPEG	1280×1024	17枚以上
SQ	JPEG	640×512	49枚以上

注意

- **撮影可能枚数が0になると、ファインダーの緑ランプとコントロールパネルの [!] と「0」が点滅します。**
- **撮影対象によりデータ量が異なるため、撮影可能枚数よりも多く撮影できることがあります。また、撮影後にカウンタが減らなかったり、1コマ消去しても撮影可能枚数が増えない場合があります。**
- **カード容量によっても撮影可能枚数は異なります。**
- **カード内にDPOFプリント予約ファイルなどがある場合も撮影可能枚数は異なります。**
- **カードには寿命があります。カード内のフラッシュメモリの状態によっては、残容量が減ることがあります。**

メモ　**残容量が999枚を超えているときは999表示となります。**

撮影をしてみましょう

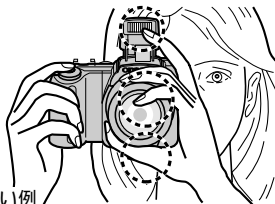
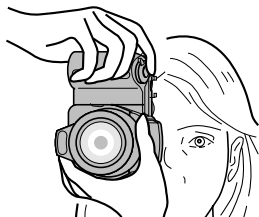
電源を入れて、撮影の準備ができたら、さっそく撮影をしてみましょう。

視度調整について

オートフォーカスマークが鮮明に見えなかったり、見にくかったりする場合は、視度調整ダイヤルで調整することができます。
視度調整ダイヤルを左手の親指の腹で回し、オートフォーカスマークが鮮明に見えるようにします。

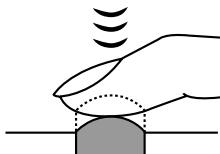
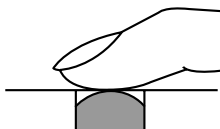
カメラの構え方

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。

よこ位置 **たて位置**

注意　レンズ、フラッシュ、AFイルミネーター・セルフタイマーシグナルに指やストラップがかからないように注意してください。

シャッターボタンの押し方

シャッターボタンの押し方には2つのステップがあります。
撮影を始める前に練習しましょう。

軽く押した状態（半押し）

・ピントが固定されます。
・ファインダー横の緑ランプが点灯します。

「半押し」した状態をさらに押し込む（押し切り）

・シャッターボタンを押し切ると露出が固定され、ファインダー横の緑ランプが点滅し、液晶モニタに撮影した画像が表示されます。（表示の有無、時間は設定することが可能です。）

・シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すと、カメラが動き、画像がぶれる原因になります。
・シャッターボタンを半押しした時にファインダー横の緑ランプが点滅した場合は、ピントが固定されていません。いったん指を離し、再度シャッターボタンを押してください。

露出は、スポット測光時にはシャッターボタンの半押しで固定されます。中央重点測光ではシャッターボタンの押し切りで固定されます。

撮影モードを選択しましょう

C-2500Lには「Pモード（プログラムモード）」／「Aモード（絞り優先モード）」／「Mモード（マニュアルモード）」の3つの撮影モードがあります。
撮影の方法や状況に合わせてモードを選択することができます。

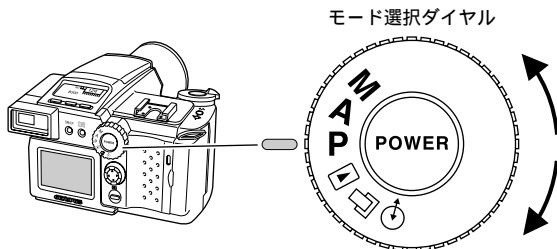
●CAMEDIA C-2500Lの撮影モードについて

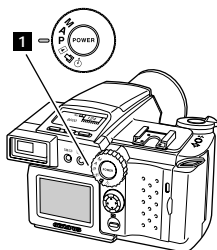
P（プログラムモード）
絞り値とシャッタースピードが、被写体に合わせて自動的に設定されます。シャッターボタンを押すだけで、簡単にきれいな画像を撮影することができます。

A（絞り優先モード）
絞り値を変えることができます。シャッタースピードは自動的にカメラが設定します。
絞り値を変えることによって、背景の描写に変化をつけることができるので、背景を生かした記念撮影のような画像や背景をぼかしたポートレートのような画像を撮影することができます。

M（マニュアルモード）
絞り値やシャッタースピードを、お使いになる方が撮影したい画像に合わせて設定することができます。
より独創性のある画像を撮影することができます。

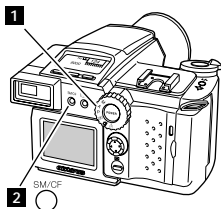
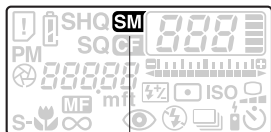
● 撮影モードの選択方法

3つのモードは、モード選択ダイヤルで選択して、撮影することができます。

M（マニュアルモード）で撮影をします。（P.87）
A（絞り優先モード）で撮影をします。（P.84）
P（プログラムモード）で撮影をします。（P.41）
▶ ― 撮影した画像を再生します。（P.62）
凸 ― 保存されている画像をプリント予約（DPOF準拠）します。（P.142）
⊖ ― パソコンなど、外部の機器とカメラを接続します。（P.170）

操作方法

1 モード選択ダイヤルを回し、操作するモードにダイヤルを合わせます。
ここでは「P」にダイヤルを合わせます。

使ってみましょう

スマートメディア／コンパクトフラッシュを選択しましょう SM CF

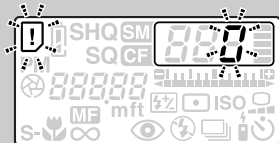
撮影した画像をスマートメディア／コンパクトフラッシュのどちらに保存するかを選択します。
撮影の前にあらかじめ選択してください。

コントロールパネル

スマートメディアマーク

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

2 [SM/CF]ボタンを押します。
[SM/CF]ボタンを押すごとに、コントロールパネルに SM（スマートメディア）と CF（コンパクトフラッシュ）が交互に表示されます。
画像を保存するカードを選択してください。

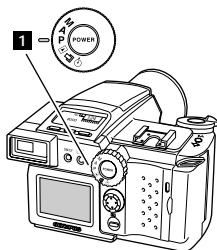
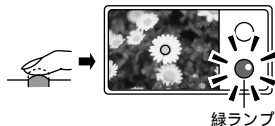
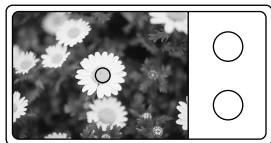
コントロールパネル

注意 **スマートメディア／コンパクトフラッシュの空き容量がない場合はコントロールパネルには 0 と ! が点滅して表示されます。スマートメディアとコンパクトフラッシュの両方のカードが挿入されている場合は、どちらかのカードに切り替えてください。自動的には切り替わりません。どちらか一方のカードだけが挿入されている場合は、十分に空き容量があるカードに交換してください。**

「P モード」で撮影してみましょう

撮影をしながら、カメラの基本的な操作方法を覚えましょう。
ここでは露出が自動で設定される「P モード」で撮影してみましょう。

ファインダー

緑ランプ

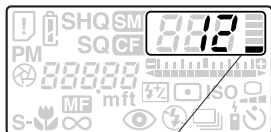
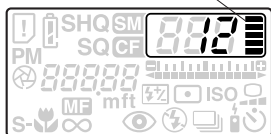
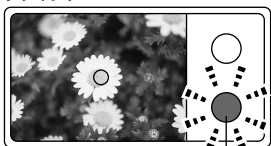
操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」に合わせます。

「P」になっていない場合は、ダイヤルを回して、「P」にしてください。「P」モードの他に「M」「A」モードがあります。詳しくはP.38を参照してください。

2 ファインダーをのぞき、構図を決めます。

3 シャッターボタンを半押しします。

ピントが固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

> **注意** シャッターボタンが半押しの状態で、緑ランプが点滅した場合は、ピントが固定されていません。いったん、シャッターボタンから指を離し、再度、シャッターボタンを半押ししてください。

4 **シャッターボタンを押し切ります。**
ファインダー横の緑ランプが消え、コントロールパネルのメモリゲージが１つ点灯します。

5 **液晶モニタに画像が表示され、カードへ書き込みが始まります。**
カードへ書き込み中でも、カード容量とメモリゲージに空きがある場合は続けて最大５枚まで撮影することができます。

6 **メモリゲージが５つ点灯すると、ファインダー横の緑ランプが点滅します。**

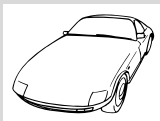
緑ランプの点滅中は、すべての操作を行うことができません。
メモリゲージが１つ消え、緑ランプの点滅が消えると、再び撮影を行うことができます。

メモ
- 液晶モニタの画像表示は設定されている時間が経つと消えます。（P.118）
- スマートメディア／コンパクトフラッシュや被写体の状態により、カードへの書き込みに時間がかかることがあります。
- 撮影される画像はファインダー内の構図より、やや広い範囲が撮影されます。

注意
- カードアクセスランプ点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池、電源プラグを抜いたりしないでください。撮影した内容が記録されないだけでなく、カードに保存されている撮影済みの内容が破壊される恐れがあります。
- 撮影中に電池残量がなくなった場合は、シャッターボタンを押した直後、または記録中に電源が切れることがあります。コントロールパネルに が点灯する場合は、撮影が正常に行なわれていません。新しい電池に交換して、再度撮影を行なってください。
- 液晶モニタをファインダー代わりに使った撮影はできません。
- カードアクセスランプ点滅中は、パワーボタンの操作を行なうことができません。モード選択ダイヤルを ▶ に切り替えた場合は、カードアクセスランプが消えてから、再生モードに切り替わります。
- カード容量を超える撮影はできません。撮影をしようとしてもメモリゲージおよび撮影可能枚数表示が点滅して操作を行うことができません。

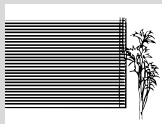
オートフォーカスの苦手な被写体について

C-2500Lは初期設定が、自動的にピントをあわせるオートフォーカスになっています。
ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、次のような条件ではピントが合わずに緑ランプが点滅して、シャッターが切れなかったり、シャッターが切れてもピントが合っていない時があります。
その場合は、クイックフォーカス(P.114)またはマニュアルフォーカス(P.76)で撮影するか、以下に説明する要領で撮影してください。

・コントラストのない被写体

被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P.46)した後、構図を決めて撮影してください。

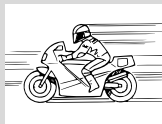
・画面中央に極端に明るいものがある被写体

被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P.46)した後、構図を決めて撮影してください。

・縦線のない被写体

カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、構図を横に戻して撮影してください。

・遠いものと近いものが共存する被写体

撮影した画像がボケているときは、同じ距離にあるものでフォーカスロック（P.46）してから構図を決めて撮影してください。

・動きの速い被写体

あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロック（P.46）してから構図を決めてください。

フォーカスロック

ピントを合わせたいものがオートフォーカスマークから外れる（中央にない）場合は、以下の操作でピントを合わせます。これをフォーカスロックといいます。

操作方法

オートフォーカスマーク

1 ファインダーをのぞき、撮影したいものにオートフォーカスマークを合わせ、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
ファインダー横の緑ランプが点灯します。

緑ランプ

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図に変えて押し切ります。

メモ ・フォーカスロックされた後、OKボタンを押したまま再度シャッターボタンを半押ししても、ピントは最初のフォーカスロックで固定されたままとすることができます。

AFイルミネーター

被写体が暗い場合は、AFイルミネーターが発光し、明るさの不足を補います。

注意

- **AFイルミネーターは3mまでしか届きません。また、3m以内でもEV2（約7ルクス）以下の明るさではピントが合わない場合があります。**
- **被写体にコントラストがない場合は、AFイルミネーターが発光してもピントは合いません。**
- **コンバージョンレンズなどを装着した場合は、AFイルミネーターが使用できません。**
- **被写体の距離によってはAFイルミネーターの光がオートフォーカスマークからずれてしまうことがありますが、性能上問題はありません。**
- **AFイルミネーターは指向性の強いランプ（LED）を使用しています。安全面では問題ありませんが、至近距離で直視することはお控えください。**

ズームを使って撮影してみましょう

ズーム機能を使って撮影してみましょう。
ズームには広角（WIDE）と望遠（TELE）があります。

ズームの効果的な使い方

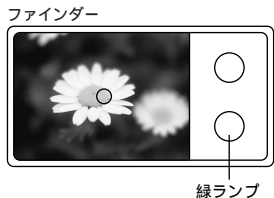
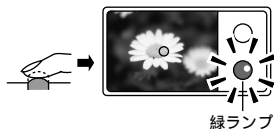
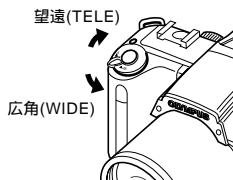
ズームとはレンズの一部を動かすことによって焦点距離を変えられることです。
C-2500Lでは、3倍光学ズームレンズが搭載されており、ズームレバーを動かすことにより、レンズの一部が動き、焦点距離を変えることができます。

望遠（TELE）とは

画角が狭く、被写体が大きく写ります。

広角（WIDE）とは

画角が広く、被写体が小さく写ります。

WIDE　　　　TELE

操作方法

1 ファインダーをのぞき、ズームレバーを動かします。
ズームレバーを「T」側に動かすと望遠になります。「W」側に動かすと広角になります。

2 構図が決まったら、シャッターボタンを半押しします。
ピントが固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

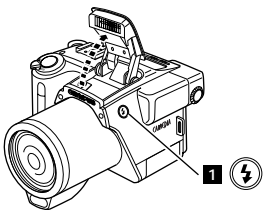
3 シャッターボタンを押し切ります。
緑ランプが消灯します。
これで撮影が完了します。

フラッシュを使って撮影しましょう

フラッシュを使って撮影をしてみましょう。
フラッシュは暗い所での撮影だけではなく、逆光や影の部分を明るく撮影するときなどにも使えます。また、スローシャッターで周囲の状況を捉えてフラッシュを発光する先幕/後幕シンクロ効果などの撮影方法もあります。先幕／後幕シンクロ効果については「先幕／後幕シンクロ効果を設定する」(P.109)を参照してください。

フラッシュの準備

撮影でフラッシュが必要なときには、シャッターボタンを半押ししたときにファインダー横のオレンジランプが点滅します。

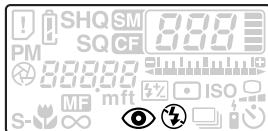
操作方法

1 フラッシュポップアップボタンを押します。
フラッシュが上がります。

注意
- **オレンジランプが点滅している時はフラッシュ充電中です。点滅中はシャッターボタンを押しても撮影できません。オレンジランプの点滅が消えてからシャッターを押してください。**
- **シャッターを半押ししたままフラッシュをアップまたはダウンするとオレンジランプが点滅し撮影禁止となります。いったん指を離し、再度シャッターを押してください。**

フラッシュ撮影可能範囲

ISO	広角（WIDE）	望遠（TELE）
100	0.3 ～ 3.6 m	0.3 ～ 2.5 m
200	0.9 ～ 5.1 m	0.6 ～ 3.5 m
400	1.2 ～ 7.2 m	0.8 ～ 5.0 m

フラッシュモードについて

このカメラには4つのフラッシュモードがあります。撮影状況や目的に合わせて使い分けてください。
フラッシュモードはコントロールパネルに表示されます。

・**オート発光（P.52）表示なし**
暗い時や逆光の時、自動的に発光します。

・**赤目軽減発光 ◉ （P.53）**
目が赤く写ってしまう現象を軽減します。
暗い時や逆光の時、自動的に発光します。

・**強制発光 ϟ （P.55）**
どのような撮影の状況でも必ず発光します。

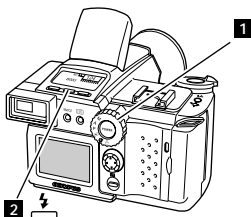
・**発光禁止 ⊘ （P.57）**
どのような状況でも発光しないようにします。

専用外部フラッシュ（FL-40）を使っての撮影方法については、P.148を参照してください。

・発光部の加熱と劣化を防止するため、フル発光での連続発光は30回までで中断し、10分以上休ませて発光部を冷却してください。
・発光部を汚したまま発光を続けると発光部が劣化する場合があります。

フラッシュモードの切り替え

フラッシュモードを切り替えます。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。**

2 **[ϟ] フラッシュ切替ボタンを押します。**
[ϟ]フラッシュ切替ボタンを押すごとに、フラッシュモードが次の順番で切り替わります。

・フラッシュポップアップ時

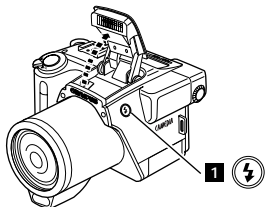
注意
- **「M モード」でオート発光、赤目軽減発光を使うことはできません。**
- **スーパーマクロモードではフラッシュをポップアップしておくことで強制発光に設定することができます。ただし、レンズ部により影が出たり正しく調光できないことがあります。**

使ってみましょう

フラッシュをオート発光して撮影しましょう

フラッシュを実際に発光させて撮影しましょう。

ファインダー

操作方法

1 **フラッシュポップアップボタンを押します。**
フラッシュが上がります。

2 **シャッターボタンを半押しします。**
フラッシュが発光するときは、ファインダー横のオレンジランプが点灯します。

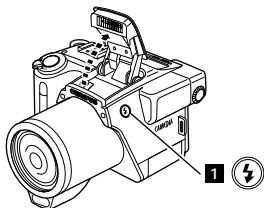
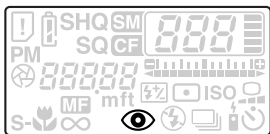
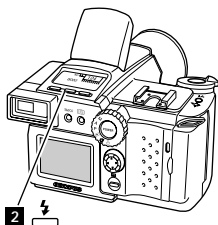
3 **シャッターボタンを押し切ります。**
フラッシュが発光します。

メモ
- **フラッシュモードを切り替えるときは、必ずフラッシュを上げてください。**
- **逆光の被写体を撮影するときは、被写体をオートフォーカスマークに合わせて撮影してください。**

赤目軽減発光で撮影しましょう

フラッシュが発光する前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

操作方法

1 フラッシュポップアップボタンを押します。
フラッシュが上がります。

2 [ ]フラッシュ切替ボタンを押します。
コントロールパネルに (赤目軽減発光マーク)が表示されていることを確認します。
が表示されていない場合は[ ]フラッシュ切替ボタンを何回か押して、表示させます。

赤目軽減発光マーク

3 **シャッターボタンを半押しします。**
ファインダー横のオレンジランプが点灯します。

4 **シャッターボタンを押し切ります。**
フラッシュが予備発光してから発光します。

注意 ・**連写モードで、赤目軽減発光を使うことはできません。**
赤目軽減発光モード中に連写モードにすると、自動的にオート発光モードに切り替わります。

メモ ・**シャッターが切れるまで約1秒かかりますのでカメラをしっかり構えてください。**
・**次の場合、赤目軽減の効果が現れにくくなります。**
＊フラッシュを正面から見ていない場合
＊予備発光を見ていない場合
＊被写体までの距離が遠い場合
＊個人差による場合

強制的に発光して撮影しましょう ϟ

フラッシュを強制的に発光させます。木陰などで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明の下で撮影するときなどに使います。

コントロールパネル

強制発光マーク

操作方法

1 フラッシュポップアップボタンを押します。

フラッシュが上がります。

2 [ϟ]フラッシュ切替ボタンを押します。

コントロールパネルに ϟ（強制発光マーク）が表示されていることを確認します。

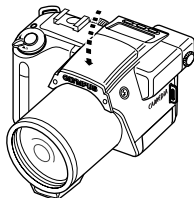
ϟ が表示されていない場合は[ϟ]フラッシュ切替ボタンを何回か押して、表示させます。

3 シャッターボタンを半押しします。
ファインダー横のオレンジランプが点灯します。

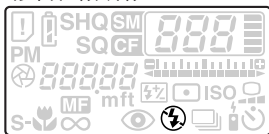
4 シャッターボタンを押し切ります。
フラッシュが発光します。

メモ
- **フラッシュ撮影可能範囲（P.49）内で撮影してください。**
- **かなり明るい状態で撮影するとフラッシュ光の効果が現れにくくなります。このような場合は、スポット測光モード（P.80）をおすすめします。**

フラッシュを使用しないで撮影しましょう

フラッシュを使えない美術館や夕焼け、夜景を撮影するときなどに使います。

コントロールパネル

フラッシュ発光禁止マーク

操作方法

1 フラッシュが上がっている場合は、フラッシュを閉じます。

2 コントロールパネルに(フラッシュ発光禁止マーク)が表示されていることを確認し、シャッターボタンを押し切ります。

フラッシュが発光せずに撮影ができます。

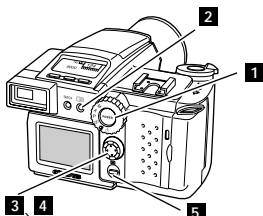
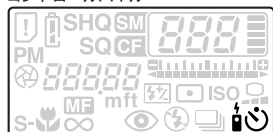
メモ

- **被写体の明るさに応じてシャッタースピードが最長1/2秒まで遅くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。**
- **動く被写体はぶれて写ります。**
- **外部フラッシュをセットしている時に、フラッシュを発光させない場合は外部フラッシュの電源をOFFにしてご使用ください。**
- **被写体が暗い時や逆光の時など、フラッシュが必要な場合は、シャッターボタンを半押しした時にオレンジランプ(P.49)が点滅します。**

セルフタイマー／リモコン(別売)を使って撮影しましょう

セルフタイマーやリモコン(別売)を使って、シャッターボタンを押す人がいなくても撮影ができます。
記念撮影など全員が集まって撮影するときなどに便利です。

セルフタイマーを使って撮影しましょう

使ってみましょう

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを、「P」、「A」、または「M」に合わせます。**

2 **[☰]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。
メニューの操作方法については、P.93を参照してください。

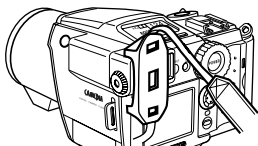
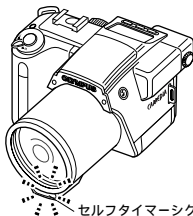
3 **十字ボタンの△ ▽でDRIVEにカーソルを合わせます。**

4 **十字ボタンの◁ ▷で を選択します。**

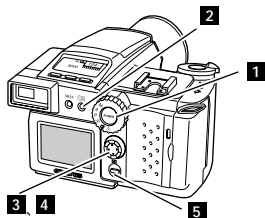
コントロールパネル

5 **[OK]ボタンを押します。**
コントロールパネルに が表示されていることを確認します。

6 **カメラを三脚などに固定し、構図を決めます。**

7 **シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。**
ファインダー横の緑ランプが点灯します。

8 **カメラ本体への逆入射光を防止するため、レンズキャップホルダをファインダーにかぶせます。**

9 **シャッターボタンを押し切ります。**
セルフタイマーシグナルが点灯します。10秒後にセルフタイマーシグナルが点滅し、さらに2秒後にシャッターが切れます。

メモ
- **撮影が終了するとセルフタイマーモードは解除されます。**
- **セルフタイマーモードをセットした後で、撮影前にモードを解除する場合は、メニューで操作します。**
- **シャッターを切り、セルフタイマーがスタートしてからタイマーを解除する場合は、[☰] メニューボタンを1回押します。この時、セルフタイマーモードは解除されません。**
- **カメラは三脚などにしっかりと固定してください。**

リモコンRM-1(別売)を使って撮影しましょう

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。**

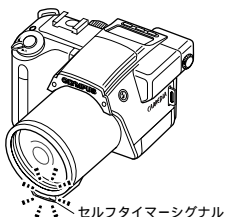
2 **[ ]メニューボタンを押します。液晶モニタにメニューが表示されます。**
メニューの操作方法については、P.93を参照してください。

3 **十字ボタンの△ ▽で DRIVE にカーソルを合わせます。**

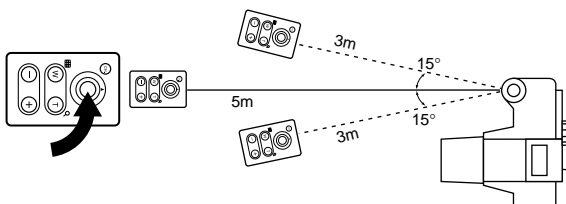
4 **十字ボタンの◁ ▷で を選択します。**

コントロールパネル

5 **[OK]ボタンを2回押してリモコンモードを確定し、メニュー画面から抜けてください。**

6 **構図を決め、カメラ本体への逆入射光を防止するため、レンズキャップホルダをファインダーにかぶせます。**

7 リモコンが届く範囲から、リモコンをカメラに向けて送信ボタンを押します。

カメラが受信音を鳴らし、セルフタイマーシグナルが2秒点滅した後シャッターが切れます。

リモコンの有効範囲

注意

- **リモコンを使用している時、連写はできません。**
- **リモコンの電池がなくなるとカメラは作動しません。**
- **リモコンの電池交換に関してはリモコン（RM-1）の取扱説明書をお読みください。電池寿命は約5年間です。（使用状況・環境により異なります）**
- **リモコンは幼児の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。**
- **リモコンを分解したり、加熱・火中に投入することは危険ですので、絶対にしないでください。**
- **太陽などの強い光がある環境下では到達距離が短くなります。リモコン受光窓に強い光をあてないでください。**
- **蛍光灯の光が強い環境下では、リモコンが効かない場合があります。**

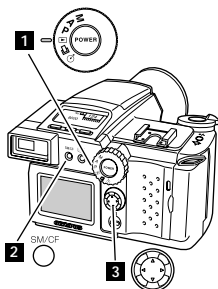
メモ

- **逆光やオートフォーカスが苦手な被写体ではリモコン撮影ができないことがあります。『オートフォーカスの苦手な被写体について』（P.44）**
- **撮影終了後もリモコンモードは解除されません。連続してリモコン撮影できます。**
- **リモコン撮影終了後はセルフタイマー／リモコンモードを解除してください。**
- **リモコンRM-1は別売となります。**

再生しましょう

撮影した画像を液晶モニタで再生することができます。
撮影した画像を1枚ずつ確認するほかに、インデックス表示で確認することもできます。

画像を確認しましょう（1枚表示）

液晶モニタに1枚だけ画像を表示します。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。

2 [SM/CF]ボタンを押し、画像が保存されているカードを選択します。
選択したカードに保存されている画像が、液晶モニタに表示されます。

3 十字ボタンの ◁ ▷ △ ▽ を押して再生する画像を表示します。

◁:1コマ前の画像を表示します。

▷:1コマ先の画像を表示します。

△:10コマ前の画像を表示します。

▽:10コマ先の画像を表示します。

注意 **液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。**

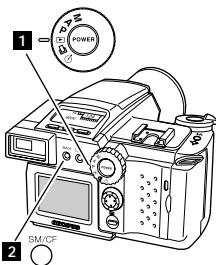
メモ

- **何も操作をしないで一定時間以上経過すると電源は自動的にオフになります。パワーボタンを押すと再び電源が入ります。**
- **1枚ずつ自動的に再生することもできます。詳しくはP.130を参照してください。**

メモ

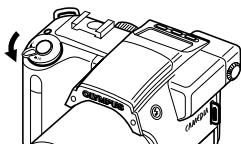
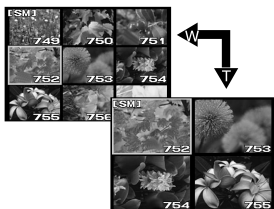
再生ファイルがDCF98形式の場合はコントロールパネルに3桁のディレクトリ番号と4桁のファイル番号が表示されます。

画像を一覧で表示しましょう（インデックス表示）

撮影した写真を4枚ずつまたは、9枚ずつ一覧で表示することができます。表示したい画像を探す時に便利です。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。**

2 **[SM/CF]ボタンを押し、画像が保存されているカードを選択します。**
選択したカードに保存されている画像が、液晶モニタに表示されます。

3 **ズームレバーを「W」側に動かします。**
画像が4枚ずつ一覧で表示されます。

4 画像が4枚ずつ表示されている状態で、さらにズームレバーを「W」側に動かすと、9枚ずつ一覧で表示できます。

◁:1コマ前へ移動します。

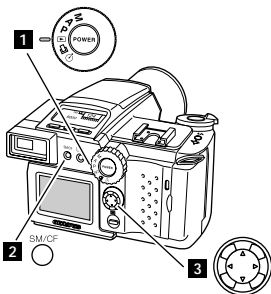
▷:1コマ先へ移動します。

△:前のインデックスを表示します。

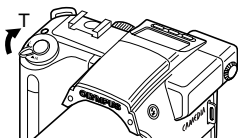
▽:次のインデックスを表示します。

画像を拡大表示しましょう

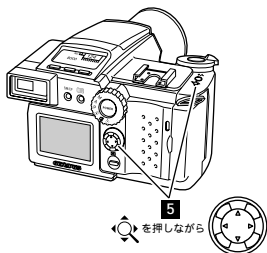
撮影した画像を拡大して表示します。
ピントや細かい部分を確認したいときに便利です。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。

2 [SM/CF]ボタンを押して、画像が保存されているカードを選択します。
選択したカードに保存されている画像が、液晶モニタに表示されます。

3 十字ボタンで、拡大表示する画像を選択します。

4 ズームレバーを「T」側に動かします。

画像が2倍に拡大して表示されます。

2倍に拡大表示されている状態で、さらにズームレバーを「T」側に動かすと、4倍に拡大されます。

5 表示されている位置を移動する場合は、[ ] スクロールボタンを押しながら、十字ボタンの移動したい方向を押します。

十字ボタンだけを押すと前後のコマが表示されます。

注意 **4倍に拡大表示された画像の移動範囲は2倍で拡大表示された範囲です。特定の部分を4倍で拡大表示したい場合は、次のように操作してください。**

1. 2倍で拡大表示している状態で、4倍に拡大したい部分までスクロールします。

2. 4倍に拡大したい部分を中心にして、ズームレバーをT側に動かします。

メモ **リモコンRM-1（別売）でも拡大表示、1コマ表示、インデックス表示の切り替えが可能です。詳細はリモコンのマニュアルを参照してください。**

画像を誤って消さないようにプロテクトしましょう

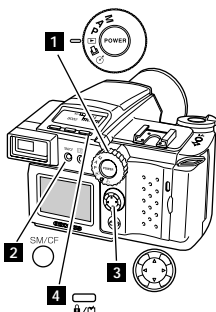
残しておきたい画像を誤って消去しないように、プロテクト(消去禁止)をかけることができます。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。**

2 **[SM/CF]ボタンを押し、画像が保存されているカードを選択します。**
選択したカードに保存されている画像が、液晶モニタに表示されます。

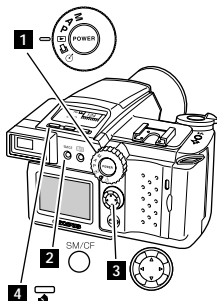
3 **十字ボタンの ◁ ▷ △ ▽ を押し、プロテクトをかける画像を表示します。**
◁:1コマ前の画像を表示します。
▷:1コマ先の画像を表示します。
△:10コマ前の画像を表示します。
▽:10コマ先の画像を表示します。

4 **[🔒]プロテクトボタンを押します。**
表示されていた画像にプロテクトがかかり、画像に 🔒 が表示されます。🔒 が表示されない場合は、[INFO]ボタンを押して表示を確認してください。[INFO]ボタンを押しても 🔒 が表示されない時は、再度[🔒]プロテクトボタンを押してください。

メモ
- **画像を一覧で表示した状態で、選択した画像にプロテクトをかけることもできます。**
- **プロテクト(🔒)をかけた画像ファイルは、パソコンのDOSファイルとして取り込むと、属性も読み込み専用ファイル(リードオンリー)になります。**
- **プロテクトをかけた画像を表示し、[🔒]プロテクトボタンを再度押すと、プロテクトをはずすことができます。**
- **スマートディアにライトプロテクトシールを貼ると、カードにプロテクトをかけることができます。プロテクト方法についての詳細はスマートメディアの取扱説明書をご覧ください。**

画像を消すには

不要になった画像を消しましょう。
1枚ずつ消す方法と、まとめて全部を消す方法の2つの方法があります。

1枚だけ消すには（1コマ消去）

液晶モニタで表示／選択した画像だけを消去します。
全部のコマをまとめて消す場合はP.136を参照してください。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。**

2 **[SM/CF]ボタンを押し、画像が保存されているカードを選択します。**
選択したカードに保存されている画像が、液晶モニタに表示されます。

3 **十字ボタンの ◁ ▷ △ ▽ を押し、消去する画像を表示します。**
◁:1コマ前の画像を表示します。
▷:1コマ先の画像を表示します。
△:10コマ前の画像を表示します。
▽:10コマ先の画像を表示します。

4 **[ ] 1コマ消去ボタンを押します。**
液晶モニタに確認のメッセージが表示されます。

5 十字ボタンの ◁ ▷ を押し、「YES」を選択します。

消去を中止する場合は「NO」を選択し[OK]ボタンを押すか、[ ]1コマ消去ボタンを押します。

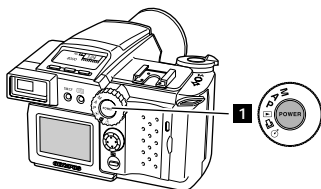
6 [OK]ボタンを押します。

カードアクセスランプが点滅し、表示されている画像が消去されます。

注意
- **画像プロテクト（P.66）がかかっている画像は消去することはできません。**

メモ
- **画像プロテクトをかけた場合でも、カードをフォーマットすると画像は消去されます。**
- **スマートメディアにライトプロテクトシールを貼ると、カードをフォーマットすることはできません。**
- **消去しようとする画像（主画像）に対するサムネールのファイルなどが同時に記録されている場合、関連するいずれかのファイルがライトプロテクトされていると、そのファイルは消去できません。**
- **1コマ消去では、DCF(Design for Camera File System)形式の画像も、それ以外の形式の画像も消去できます。**

電源を切りましょう

これで、一通りの操作が終わりました。
ここで操作を終わる場合は、パワーボタンを押して電源を切ります。

注意
- **アクセスランプ点滅中にはカードカバーを開けたり、電池や専用ACアダプタを抜かないでください。**
- **カメラの動作中に電源を切ると設定モードや時計がリセットされたり、撮影画像が記録されないだけでなく、記録済の内容が破壊される恐れがあります。**
- **電源を切ったり、電池の交換を行っても、撮影した画像は保存されます。**

この他にも、いろいろな機能があります。「いろいろな機能を使ってみる」（P.71）を参照して、C-2500Lを使いこなしてみましょう。

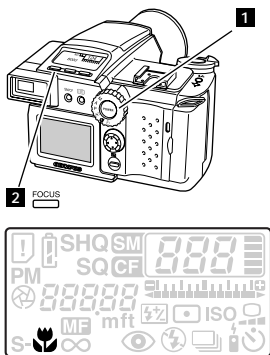
CAMEDIA

3

いろいろな機能を使ってみる

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

マクロ

近くにあるものを撮影するときに使います。
被写体に0.3m（30cm）の距離まで近づいて、9×11cmの範囲を撮影することができます。（TELE時）

マクロマーク

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

2 [FOCUS]ボタンを押します。
コントロールパネルに（マクロマーク）が表示されていることを確認します。
が表示されない場合は[FOCUS]ボタンを何回か押して、表示させます。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
ファインダー横の緑ランプが点灯します。

4 シャッターボタンを押し切ります。

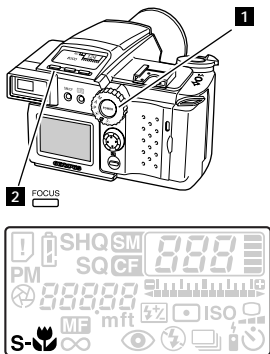
・0.3mより近い距離でもシャッターが切れることがあります。その場合は、撮影画像でピントを確認してください。0.3mより近い距離での撮影は『スーパーマクロ』（P.73）で撮影することをおすすめします。

いろいろな機能を使ってみる

スーパーマクロ

S-

マクロ撮影よりもさらに近くにあるものを撮影するときに使います。
WIDEで被写体に最短2cmの距離まで近づいて、撮影することができます。

操作方法

スーパーマクロマーク

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

2 [FOCUS]ボタンを押します。

コントロールパネルに S- (スーパーマクロマーク)が表示されていることを確認します。
S- が表示されない場合は[FOCUS]ボタンを何回か押して、表示させます。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

ファインダー横の緑ランプが点灯します。

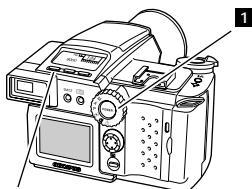
4 シャッターボタンを押し切ります。

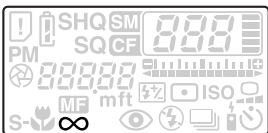
> **注意** 別売のワイドコンバージョンレンズ(WCON-08)、マクロコンバージョンレンズ(MCON-40)は、スーパーマクロモードで使用した場合、充分な効果が得られないことがあります。

- スーパーマクロでは、フラッシュをポップアップさせ、「強制発光」モードにするとフラッシュを使って撮影することができます。ただし、レンズで影が出たり正しく調光されないことがあります。
- スーパーマクロでは、60cmから2cmの間で近接撮影をすることができますが、30cmより近い撮影の場合、ズームのTELE（望遠）ではピントが合わなくなります。30cmより近いものを撮影する場合は、WIDE（広角）端で撮影してください。
- 2cmまで近づいて撮影を行うと、被写体の輪郭がわん曲して撮影されます。
- 遠くの被写体を撮影した直後にマクロ撮影を行うと、ピント合わせに時間がかかります。

無限遠

遠くの被写体を写すときに使います。

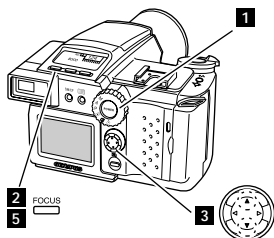
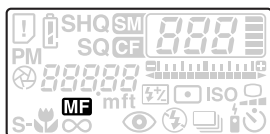
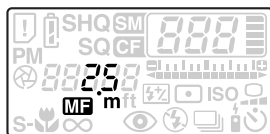
操作方法

無限遠マーク

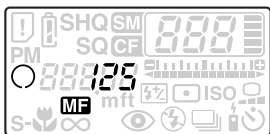
1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

2 [FOCUS]ボタンを押します。
コントロールパネルに ∞（無限遠マーク）が表示されていることを確認します。
∞ が表示されない場合は［FOCUS］ボタンを何回か押して、表示させます。

3 シャッターボタンを押し切ります。

マニュアルフォーカス

被写体までの距離を手動で設定し、フォーカスを合わせます。
オートフォーカスが苦手な被写体（P.44）などは、マニュアルフォーカスを使うことで効果的に撮影できます。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

2 [FOCUS]ボタンを押します。
コントロールパネルに MF が表示されていることを確認します。
MF が表示されない場合は[FOCUS]ボタンを何回か押して、表示させます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、被写体までの距離を設定します。
すでに、マニュアルフォーカスで距離を設定して撮影している場合は、前回の値が表示されます。

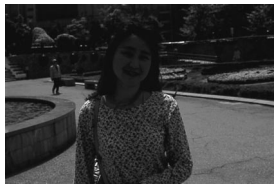
注意 **距離の設定値は目安となる値を表示しています。撮影画像でピントを確認することをお薦めします。**

4 シャッターボタンを半押しします。
シャッタースピード、絞りが表示されます。

5 シャッターボタンを押し切ります。
距離を再度変える場合は[FOCUS]ボタンを押します。

- **[OK]ボタンを押しながらシャッターボタンを押すとクイックフォーカスで撮影されます。（P.114）**
- **距離の単位m/ftを選択することができます。（P.122）**
- **マニュアルフォーカスの距離設定中は下記の操作以外には受け付けません。カード切り替え／モードダイヤル／パワースイッチ／シャッターレリース／カード蓋の開閉／フラッシュの開閉／ズーム操作／十字キー上下／フォーカスロック**
- **急激な温度変化等により、まれにピント位置がずれてしまうことがあります。ピントがずれている場合は、距離を1つ近くか遠くへ設定して撮影してください。**

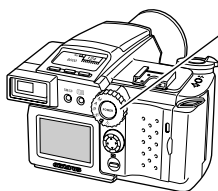
測光モードを設定する

撮影する被写体の明るさを測って撮影します。
このカメラでは中央重点測光とスポット測光の2種類の測光方法があり、あらかじめ中央重点測光の測光方法に設定されています。

中央重点測光

スポット測光

中央重点測光で撮影する

一般的な測光方法で、画面中央部を中心に広い範囲を測光します。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

メモ **コントロールパネルに [•] が表示されている場合は、スポット測光に設定されているので、[[•]]スポット測光ボタンを押してください。[•] がコントロールパネルから消え、中央重点測光に設定されます。**

いろいろな機能を使ってみる

2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

ファインダー横の緑ランプが点灯します。

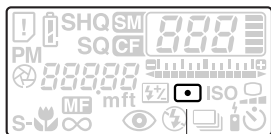
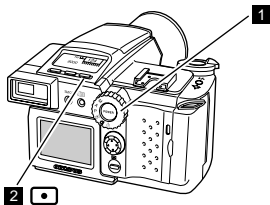
3 シャッターボタンを押し切ります。

シャッターボタンを押し切ったときに、露出を固定します。

スポット測光で撮影する

逆光などで被写体が暗くなる時に、背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露光で撮影するときに使います。

スポット測光マーク

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。**

2 **[ ]スポット測光ボタンを押します。**

コントロールパネルに（スポット測光）が表示されていることを確認します。

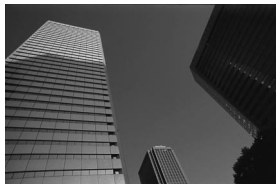
が表示されない場合は[ ]スポット測光ボタンを押して、表示させます。

3 **被写体にオートフォーカスマークを合わせ、シャッターボタンを半押しし、露出を合わせます。**

同時にピントも固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

4 **シャッターボタンを押し切ります。**

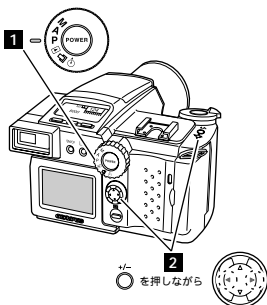
注意 **スポット測光時は、シャッターボタンの半押しで露出を合わせます。従ってフラッシュを使用するときは、シャッターボタンの半押しでプリ調光のためのフラッシュ発光があり、シャッターボタンを押し切ると本発光があります。**

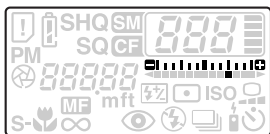
露出補正をする

「Pモード」／「Aモード」で露出補正をして撮影することができます。
1/3EVステップで±2EVまで補正値を設定できます。

露出マイナス補正

露出プラス補正

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」または「A」に合わせます。

2 [+/−]ボタンを押しながら、十字ボタンの ◁ ▷ で補正値を設定します。

[+/−]ボタンを押しながら ▷ を押すと+補正、[+/−]ボタンを押しながら ◁ を押すと−補正されます。

コントロールパネルに露出補正表示が表示されます。
補正値の上限値または下限値になると、ピッピッピッと警告音が鳴ります。

3 補正値が決まったら、シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせます。

ファインダー横の緑ランプが点灯します。

4 シャッターボタンを押し切ります。

メモ　フラッシュの発光量は自動的に補正されません。発光量を変えるときは、P.108を参照してください。

注意

- **フラッシュ使用時に露出プラス補正をすると、背景の露出を上げるためにシャッター速が長くなります。手ぶれをしないようにカメラをしっかり構えてください。**
- **露出補正値は電源をOFFにしても保存されます。再びご使用になる際、露出補正値を確認してください。**

絞り値を設定する

Aモード **Mモード**

絞り値を設定することにより、背景を、近くから遠くまで鮮明に撮影したり、ぼかして撮影したりすることができます。

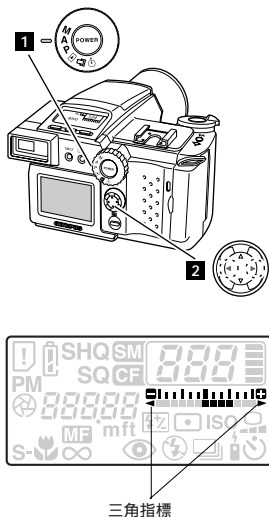
ポートレートを撮ってみよう

ポートレートは、どんな写真かを思い出してみてください。
アイドルのポートレートなどは、アイドルにピントがあっていて背景が何もなかったり、ぼけていたりします。
背景をぼかして、人物をくっきりと浮き出して撮影するとポートレートらしい画像になります。

「A モード」では、絞りを設定するだけで気軽にポートレートを撮ることができます。
背景をぼかした画像を撮るには、絞り値をF2.8にします。
絞り値が小さくなるとピントの合う範囲が狭くなり、背景がぼけます。

記念撮影をしよう

修学旅行などの記念撮影を思い出してみてください。
観光地でみんなと並んで撮影した写真には、背景などの広い範囲にもピントがあっています。被写体のみでなく背景にもピントを合わせて撮影すると記念撮影らしい画像になります。

「A モード」では、絞りを設定するだけで気軽に記念撮影することができます。
背景がはっきりとした画像を撮るには、絞り値をF5.6にします。
絞り値が大きくなるとピントの合う範囲が広くなり、背景がはっきりとした写真を撮ることができます。

三角指標

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「A」または「M」に合わせます。

2 十字ボタンの ◁ で絞り値を「絞り込み ㊉」に、▷ で「開放 ○」に設定します。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

ファインダー横の緑ランプが点灯します。

Mモードの時は露出レベルがコントロールパネルに表示されます。露出のズレが±2EVを超えると、三角指標（◀▮▮▶）が点滅します。測光が不可能な場合は全指標が点滅します。

4 シャッターボタンを押し切ります。

メモ

・絞り値は、TELE時、WIDE時で次のように変化します。

	WIDE～TELE
○	F2.8～F3.9
㊉	F5.6～F7.8

注意 **絞りを「開放 ○」に設定した時は画面内の高輝度の部分（例：太陽の反射など）ではCCD特有の現象（スメア等）が起こることがあります。この場合は「絞り込み ㊉」に設定してください。**

シャッタースピードを設定する

動いているものを撮ってみよう

走っている陸上の選手や自動車レースの車などは、シャッタースピードを変えることによって描写を変えることができます。
動いている被写体の描写を変えるには、「Mモード」のシャッタースピードで調節することができます。

シャッタースピードが速い(1/500、1/1000秒など)ほど動いているものが止まっているように写ります。

シャッタースピードが遅い(1/15、1/30秒)ほど動いているものが流れるように写ります。

シャッタースピード

シャッタースピードは、1/15、1/8、1/4、1/2、(秒)...... と時間で表示されます。

←速い　遅い→

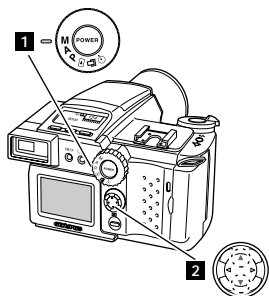
1/2000 1/1000 1/500 1/250 1/125 1/60 1/30 1/15 1/8 1/4 1/2 1 2

コントロールパネル上では、1/125→125、2→2"と表示されます。

M モード

シャッタースピードを設定することにより被写体の動きを捕えた撮影ができます。

三角指標

操作方法

1 **モード選択ダイヤルで、「M」を選択します。**

2 **十字ボタンの △▽ で、シャッタースピードを設定します。**

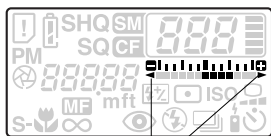
△を押すごとにシャッタースピードが高速に、▽を押すごとに低速に設定されます。

3 **シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。**

ファインダー横の緑ランプが点灯します。

露出レベルがコントロールパネルに表示されます。

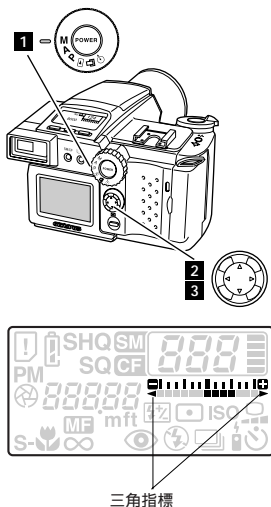
露出のズレが±2EVを超えると、三角指標（◀▮▮▮▶）が点滅します。

測光が不可能な場合は全指標が点滅します。

4 **シャッターボタンを押し切ります。**

注意 **1/250秒以上の高速のシャッタースピードでは、フラッシュ光の効果が得られないことがあります。**

マニュアル露出

Mモード

シャッタースピードと絞りを任意に設定して、表現力豊かな撮影ができます。

三角指標

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを「M」に合わせます。**

2 **十字ボタンの ◁ ▷ で、絞り値を設定します。**

3 **十字ボタンの △▽ で、シャッタースピードを設定します。**

4 **シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。**

ファインダー横の緑ランプが点灯します。

露出レベルがコントロールパネルに表示されます。

露出のズレが±2EVを超えると、三角指標（◀▮▮▮▶）が点滅します。

測光が不可能な場合は全指標が点滅します。

5 **シャッターボタンを押し切ります。**

注意 **長時間シャッターを設定すると、ISO感度の設定範囲が制限されます。また、CCDの特性により画像にノイズが増えることがあります。**

メニューの種類

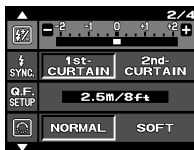
ここではC-2500Lで表示されるメニューを紹介します。
「P」「A」「M」の撮影モード時と、 ▶ 再生モード時では、表示されるメニューが異なります。

「P」「A」「M」の撮影モード時のメニュー

DRIVE ・・・・・・・・・・・ドライブモードを設定します。（P.58、96）

Q ・・・・・・・・・・・画質モードを指定します。（P.98）

WB ・・・・・・・・・・・ホワイトバランスを設定します。（P.100）

ISO ・・・・・・・・・・・撮影の感度を指定します。（P.106）

・・・・・・・・・・・フラッシュの発光量を補正します。（P.108）

SYNC. ・・・・・・・・・・・後幕シンクロ効果／先幕シンクロ効果を指定します。（P.109）

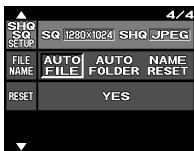
Q.F. SETUP ・・・・・・・・・・・クイックフォーカスの距離を設定します。（P.112）

・・・・・・・・・・・シャープネスを指定します。（P.115）

…………ビープ音を鳴らすか鳴らさないかを指定します。（P.116）

SETUP …………液晶モニタの表示／自動的に電源が切れる時間を設定します。（P.117、118）

…………カメラの日付／時刻を設定します。（P.119）

DISP SETUP …………液晶モニタへの撮影情報の表示／撮影距離単位を設定します。（P.121、122）

SHQ SQ SETUP …………SHQ/SQの画像タイプを指定します。（P.123）

FILE NAME …………フォルダ名、ファイル名の付け方を指定します。（P.125）

RESET …………撮影条件の一部の設定をリセットします。（P.131）

メモ

- **撮影モード時は設定の途中でも、そのときのカーソル位置の設定でシャッターボタンを受け付けます。**
- **撮影動作中はメニュー表示は消えます。**
- **記録中はメニューの操作は受け付けません。記録が終ると受け付けます。**

再生モード時のメニュー

選択しているカード

[SM]

START

COPY

SM SETUP

…………自動コマ送りを指定します。（P.132）

COPY …………画像のコピー方法を指定します。（P.133）

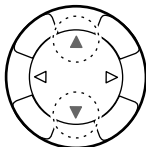
SM SETUP …………スマートメディア／コンパクトフラッシュに保存されている画像の消去方法を指定します。（P.136）

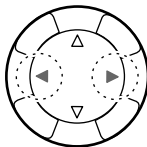
…………液晶モニタの明るさを設定します。（P.139）

十字ボタンの使い方

メニューでの十字ボタンの使い方

メニューのカーソルを移動するときに十字ボタンを使います。
メニューについては『メニューの種類』(P.88)を参照してください。

△ ▽ ボタン

項目にカーソルがある場合、
項目を選択します。

◁ ▷ ボタン

各項目の設定内容を選択します。

各モードでの十字ボタンの使い方

十字ボタンで、絞りやシャッタースピードの数値を指定したり、露出補正や距離の数値を指定することができます。
また、再生モードでは表示する写真を選択する以外にも、インデックス表示で表示単位ごとに切り替えることもできます。
十字ボタンの役割は、撮影モード、再生モードによって異なります。

●「P」「A」「M」の撮影モード時

「P」「A」「M」の撮影モードのとき、十字ボタンは次のような機能が割り当てられます。

・シャッタースピードの設定（M モード時）
△ ▽ ボタンでシャッタースピードを指定します。

・絞り値の設定（A/M モード時）
◁ ▷ ボタンで絞り値を指定します。

・**露出補正（A/P モード時）**
[＋／－]ボタンを押しながら、 ◁ ▷ ボタンを押すと露出補正の数値を指定することができます。

・**被写体までの距離の設定（マニュアルフォーカス時）**
△ ▽ ボタンで被写体までの距離を指定します。

●再生モード時 ▶

再生モードのとき、十字ボタンは次のような機能が割り当てられます。

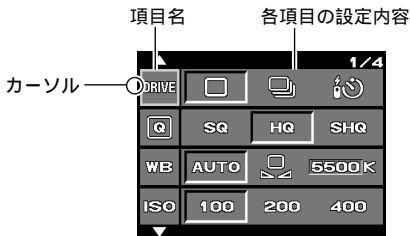
・ **△ ▽ ボタン**
1コマ表示の場合は1コマ目→11コマ目→21コマ目....のように、10コマ単位でコマ送りをします。
インデックス表示の場合は、表示している枚数単位で次のインデックス画面に切り替わります。

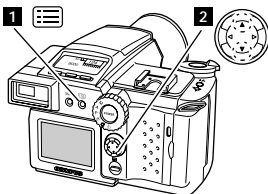
・ **◁ ▷ ボタン**
1コマ表示の場合は1コマ単位でコマ送りをします。
インデックス表示の場合は、1コマ単位でカーソルが移動します。

・**[🔍] スクロールボタン+ △ ▽ ◁ ▷**
拡大表示した画像をスクロールすることができます。

メニューの操作方法

液晶モニタにメニューを表示させ、各機能を選択／設定することができます。ここでは、メニューの操作方法について説明します。

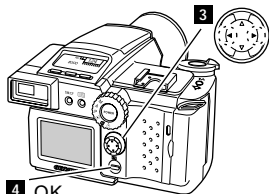
メニューについて

メニューの操作方法

メニューで各機能を設定します。

操作方法

1 [ ]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して、設定したい項目にカーソルを合わせます。

◁ ▷ ボタンでカーソルが左右に移動

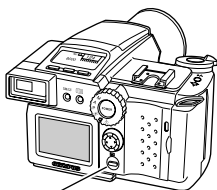
3 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、設定値にカーソルを合わせます。**

4 **[OK]ボタンを押します。**
項目の設定値が選択されます。

メニューのページ切り替え

液晶モニタに表示されるメニューは4項目ずつ表示され、△ ▽ ボタンを押すことにより前後のページを表示することができます。

十字ボタン △ ▽ でページを切り替えます。

メニューを終了する

各設定ができたら、設定を確定しメニューを終了します。

操作方法

1 各項目の設定ができたら[OK]ボタンを押します。

設定値が確定して、メニューが液晶モニタから消えます。

注意 **各項目を設定して[OK]ボタンを押さない状態でもそのまま撮影はできますが、設定値が確定しない状態で[ ]メニューボタンを押すと、指定した設定は確定されず元の設定のままになります。**

メモ **メニュー表示中に撮影するとその時確定されている設定で撮影できます。撮影後、メニューボタンを押すと1ページ目のメニューに戻らず、最後に設定したメニュー画面に戻りますので撮影条件を変えながらの撮影に便利です。**

連写（連続して撮影）をする

シャッターを押し続けている間、最大5枚まで連写ができます。

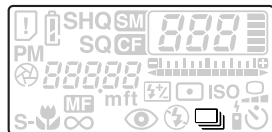
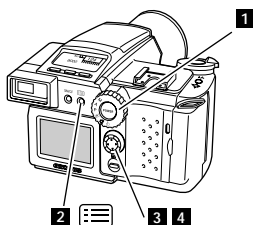
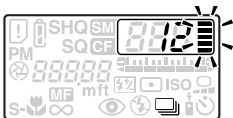
操作方法

1 **モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。**

2 **[ ]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 **十字ボタンの△▽で、DRIVEにカーソルを合わせます。**

4 **十字ボタンの◁ ▷で、 を選択します。**

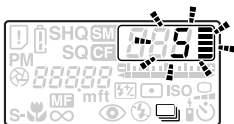
5 **[OK]ボタンを押します。**
コントロールパネルに が表示されている事を確認します。

メモ　・画質モード（SQ、HQ、SHQ）に関係なく連写ができます。

6 シャッターボタンを押し切っている間、連写ができます。

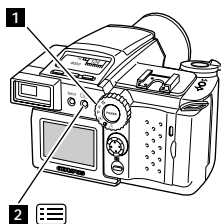
シャッターボタンを押し切っている間に撮影できるコマ数は最大5コマまでです。撮影したコマ数は、コントロールパネルのメモリゲージに表示されます。

注意

- **セルフタイマーとの併用はできません。**
- **フラッシュモードの赤目軽減発光は選択できません。**
- **内蔵フラッシュを使う時は、シャッターボタンを押したままフラッシュの充電を待ちます。ファインダー横のオレンジランプが点灯するまでシャッターは切れません。**

メモ

- **カードアクセスランプ点滅中は、パワーボタンの操作は受付けません。**
- **カードの残量を超えて撮影しようとした場合は、メモリゲージおよび撮影可能枚数表示が点滅して撮影を受付けません。**

画質モードを選択する　SQ HQ SHQ

撮影する画像の画質（クォリティ）を選択します。
画質は「SQ」→「HQ」→「SHQ」の順に高画質になります。

操作方法

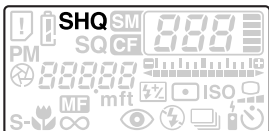
1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

2 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、Q にカーソルを合わせます。

4 十字ボタンの ◁ ▷ で、画質モードを「SQ」「HQ」「SHQ」から選択します。
設定をキャンセルするには[☰]ボタンを押します。

5 [OK] ボタンを押します。

画質が設定され、カーソルが [Q] に戻ります。

コントロールパネルに選択した画質モードが表示されます。

メモ

- **「SQ」「SHQ」には、保存できる画像のタイプがそれぞれ2タイプ（SQ：640×512画素／1280×1024画素、SHQ：JPEG/TIFF）あります。画像タイプの設定方法については、次の「SQの画像サイズを指定する」「SHQの画像タイプ(JPEG/TIFF)を指定する」を参照してください。**

画質モード	圧縮/非圧縮	記録画素数
SHQ	TIFF	1712×1368
	JPEG	
HQ	JPEG	1712×1368
SQ	JPEG	1280×1024
	JPEG	640×512

いろいろな機能を使ってみる

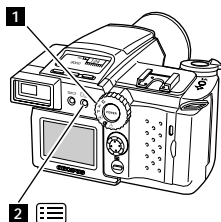
ホワイトバランスを設定する

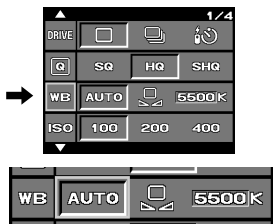
ホワイトバランスを設定することにより、光の影響を受けない色合いで撮影することができます。

メモ　ホワイトバランスについては、『蛍光灯の下で自然な色彩で写真を撮る』(P.162)も参照してください。

オートに設定する

ホワイトバランスをオートで設定します。
自動的に白い光を判断して、全体の色のバランスを調節します。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

2 [ ]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、WB にカーソルを合わせます。

4 十字ボタンの ◁ ▷ で、AUTO を選択します。

5 [OK]ボタンを押して AUTO 設定を確定します。

もう一度[OK]ボタンを押すか[☰]メニューボタンを押すと、メニュー表示が消えます。

6 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

7 シャッターボタンを押し切ります。

ワンタッチホワイトバランスに設定する

オートでホワイトバランスが合わないときには、白い光にしたい光源をカメラに記憶させます。
記憶させた光源を基準に、カメラが全体の色のバランスを調節して撮影をします。

いろいろな機能を使ってみる

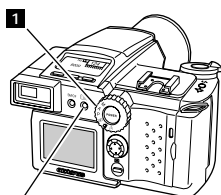
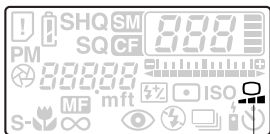
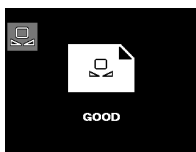
操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

2 [ ]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、 WB にカーソルを合わせます。

4 十字ボタンの ◁ ▷ で、 を選択します。

5 [OK]ボタンを押します。
液晶モニタに設定の選択画面が表示されます。

6 新しくホワイトバランス値を設定する場合は白い紙を光源の下の光が当たるようなところに置くか、人に持ってもらい、ファインダーいっぱいに入るようにして、[OK]ボタンを押します。

前回の設定値を使う場合は[ ]メニューボタンを押し、手順7に進みます。

光源が記憶されると、液晶モニタに「GOOD」と表示されます。もう一度[OK]ボタンを押すと、ワンタッチホワイトバランスが設定されます。光源が正確に記憶できない場合は、液晶モニタに「NO GOOD X」と表示されます。もう一度[OK]ボタンを押すと、ワンタッチホワイトバランス値は前回設定された値のまま **3** の画面に戻ります。設定しなおしたい場合は、再度 **4** から操作を行ってください。

ホワイトバランスマーク

コントロールパネルに が表示されます。

7 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

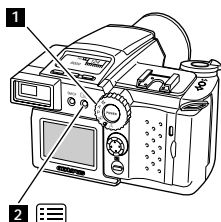
ファインダー横の緑ランプが点灯します。

8 シャッターボタンを押し切ります。

記憶させた白い色を基準にして、撮影されます。

メモ ・**AUTOに戻したい時はメニューで を選択します。**

マニュアルホワイトバランスを設定する

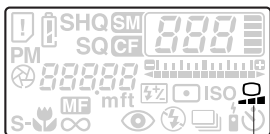
マニュアルホワイトバランスを設定することにより、色合いを変えることができます。
例えば夕焼を撮影する時、４５００Kより高い色温度で撮影するとより赤く夕焼が強調されます。
逆に低い色温度で撮影すると夕焼が青空のように撮影されます。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

2 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、WB にカーソルを合わせます。

4 十字ボタンの ▷ で、5500K を選択します。

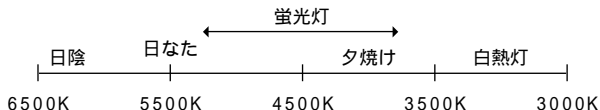
5 十字ボタンの △ ▽ で、数値を選択します。
３０００K、３７００K、４０００K、４５００K、５５００K、６５００Kから選択します。

ホワイトバランスマーク

6 [OK]ボタンを押します。
コントロールパネルに が表示されます。

7 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
ファインダー横の緑ランプが点灯します。

8 シャッターボタンを押し切ります。
設定したホワイトバランスで撮影されます。

メモ　フラッシュを使って撮影した後は、 モードで画像を再生し、色の確認を行ってください。

●光源と色温度の目安

メモ
- **フラッシュ撮影時は、ホワイトバランスをオートモードで使用することをおすすめします。**
- **フラッシュ撮影でマニュアルホワイトバランスを使用するときは、6500Kに設定してください。なお、フラッシュ撮影の条件により色温度は変わります。**

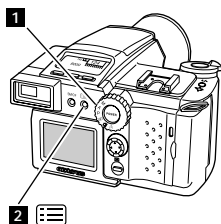
感度を設定する　ISO

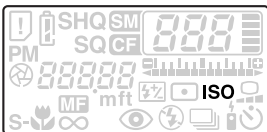
感度（ISO）を設定することができます。感度は写真フィルムの感度を基準に設定しています。
感度の種類は100、200、400の3種類があります。数値が大きくなるほど、暗い所での撮影や動きの速い被写体の撮影に強くなります。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。**

2 **[ ]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 **十字ボタンの △ ▽ で、ISO にカーソルを合わせます。**

4 十字ボタンの ◁ ▷ で、感度を「100」「200」「400」から選択します。
設定をキャンセルするには[☰]メニューボタンを押します。

5 [OK]ボタンを押します。
感度が設定され、カーソルが に戻ります。

「100」以外を選択した場合はコントロールパネルに **ISO** が表示されます。

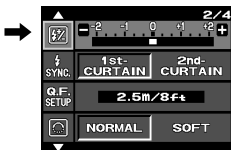
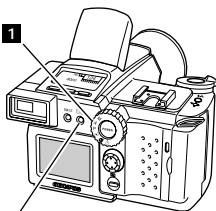
メモ

- **「100」を選択した場合は標準感度のため、コントロールパネルにISOは表示されません。**
- **ISOの数値が大きくなるほど暗い所での撮影に適していますが、画像のノイズが増えます。状況に応じて使い分けをしてください。**
- **「M モード」の時は感度に応じて最長シャッター速が変わります。**

ISO	100	200	400
長時間シャッター	2"	4"	8"

いろいろな機能を使ってみる

フラッシュの発光量を補正する

フラッシュの発光量の補正をします。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。**

2 **[ ]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 **十字ボタンの △ ▽ で、 にカーソルを合わせます。**

4 **十字ボタンの ◁ ▷ で、フラッシュの露出補正量を設定します。▷を押すごとに1/3EVステップで＋補正、◁を押すごとに1/3EVステップで−補正されます。±2EVの範囲で補正できます。**

5 **［OK］ボタンを押します。**

●フラッシュ発光量補正

専用外部フラッシュで「TTL-AUTO」を選択し、内蔵フラッシュと併用する場合は、両方同時にフラッシュの発光量を補正します。
専用外部フラッシュで「MANUAL」を選択し、内蔵フラッシュと併用する場合は、内蔵フラッシュの発光量のみ補正します。

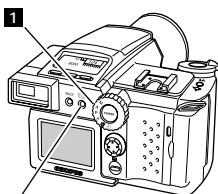
注意 **シャッタースピードが速い場合はフラッシュ発光量補正の効果が十分に得られないことがあります。**

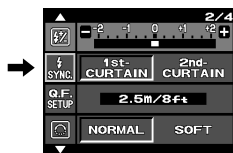
先幕／後幕シンクロ効果を設定する

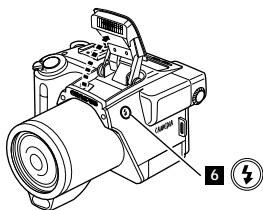
スローシャッターで周囲の状況を捉え、露光期間の最初または最後にフラッシュが発光する撮影方法です。
先幕／後幕シンクロ効果は、「M」モードでシャッター速を遅くした時（スローシャッター時）ご使用になると最も効果的です。

先幕シンクロ効果で撮影する

先幕シンクロ効果は、スローシャッターで周囲の状況を捉え、最初にフラッシュが発光する撮影方法です。
例えば、夜間走行中の自動車を撮影した場合、ヘッドライトの光が走行方向に流れて撮影されます。

操作方法

1 モード選択ダイヤルで、「P」／「A」／「M」を選択します。

2 [ ]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、SYNC. にカーソルを合わせます。

4 十字ボタンの ◁ ▷ で、1st-CURTAIN を選択します。

5 **[OK]ボタンを押します。**

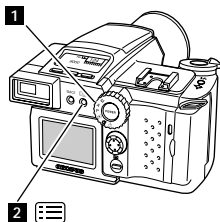
6 **フラッシュを上げます。**

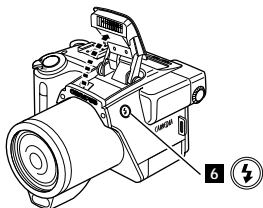
7 **シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。**

8 **シャッターボタンを押し切ります。**
先幕シンクロ効果で撮影されます。

いろいろな機能を使ってみる

後幕シンクロ効果で撮影する

後幕シンクロ効果は、スローシャッターで周囲の状況を捉え、最後にフラッシュが発光する撮影方法です。例えば、夜間走行中の自動車を撮影した場合、テールランプが尾を引いて撮影されます。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。**

2 **[ ]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、SYNC. にカーソルを合わせます。

4 十字ボタンの ◁ ▷ で、2nd-CURTAIN を選択します。

5 [OK] ボタンを押します。

6 フラッシュを上げます。

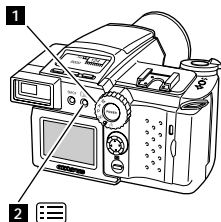
7 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
ファインダー横の緑ランプが点灯します。

8 シャッターボタンを押し切ります。
後幕シンクロ効果で撮影されます。

クイックフォーカス

設定した距離にワンタッチでピントを合わせることができます。
距離はあらかじめメニューで設定しておきます。

クイックフォーカスの距離を設定する

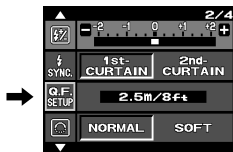
クイックフォーカスの距離を設定します。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。**

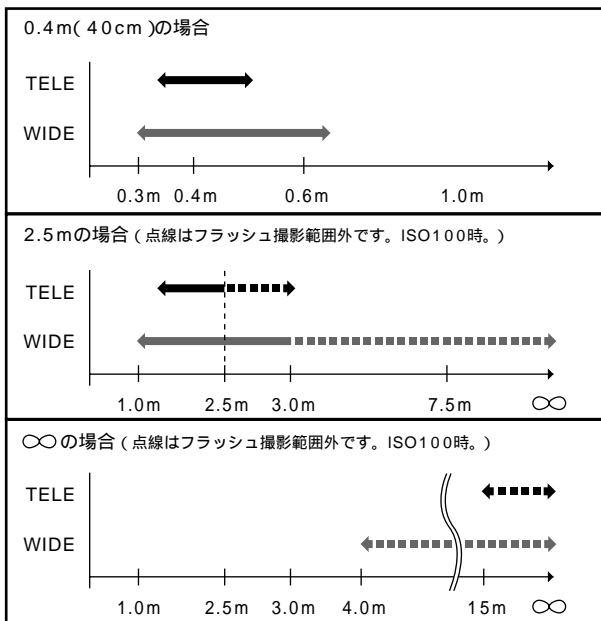
2 **[☰]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

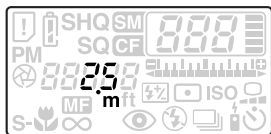
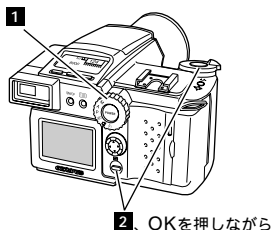
3 **十字ボタンの △ ▽ で、Q.F. SETUP にカーソルを合わせます。**

4 **十字ボタンの ▷ を押します。**

5 **十字ボタンの △ ▽ で、距離を選択します。**
0.3m、0.35m、0.4m、0.5m、0.6m、0.8m、1m、1.2m、1.5m、2m、2.5m、3.5m、5m、8m、15m、∞から選択します。

6 **[OK]ボタンを押します。**
距離が設定され、Q.F. SETUPに戻ります。

●クイックフォーカス合焦範囲の目安

クイックフォーカスの合焦範囲の目安を距離別に表示します。撮影、設定の参考にしてください。

クイックフォーカスで撮影する

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

2 [OK]ボタンを押しながら、シャッターボタンを半押しします。
設定した距離（P.112）にピントが固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

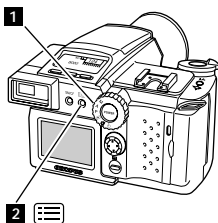
コントロールパネルに距離が表示されます。ただし、マニュアルフォーカス距離表示がされているときは、クイックフォーカスの距離は表示されません。

3 シャッターボタンを押し切ります。
クイックフォーカスで撮影されます。

- **シャッターボタンを半押しする前に[OK]ボタン（クイックフォーカスボタン）を離すと、クイックフォーカスにはなりません。**
- **フラッシュ使用時は、フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。フラッシュ撮影範囲については「フラッシュ撮影可能範囲」（P.49）を参照してください。**
- **クイックフォーカスはオートフォーカスの苦手な被写体の場合に便利です。**
- **急激な温度変化等により、まれにピント位置がずれてしまうことがあります。ピントがずれている場合は、距離を1つ近くか遠くへ設定して撮影してください。**

シャープネス(鮮鋭度)を指定する

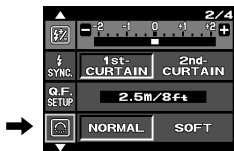
シャープネス(鮮鋭度)を指定します。シャープネス(鮮鋭度)とは画像の切れ味のことです。「NORMAL」と「SOFT」の2種類から選択することができます。
「NORMAL」は画像の切れ味がシャープです。プリントなどの鑑賞用に適しています。「SOFT」は素直な輪郭を再現できます。パソコンなどで画像処理するときなどに適しています。状況に応じて使い分けてください。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

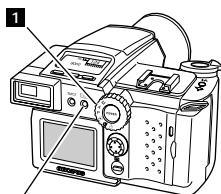
2 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、[シャープネス] にカーソルを合わせます。

4 十字ボタンの ◁ ▷ で、「NORMAL」または「SOFT」から選択します。
設定をキャンセルするには[☰]メニューボタンを押します。

5 [OK]ボタンを押します。
シャープネスが設定され、カーソルが [シャープネス] に戻ります。

ビープ音を設定する

警告音などのビープ音を鳴らすか鳴らさないかを指定できます。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを「P」、「A」または「M」に合わせます。**

2 **[☰]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

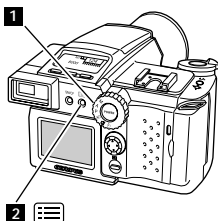
3 **十字ボタンの △ ▽ で、 🔊 を選択します。**

4 **十字ボタンの ▷ で、「ON」(鳴る)、「OFF」(鳴らない)を選択します。**

5 **[OK]ボタンを押します。**
ビープ音が設定されます。

記録中の画像の表示時間を設定する

撮影した画像がスマートメディア／コンパクトフラッシュに記録されている間、撮影した画像を液晶モニタに表示するかどうかを設定します。

操作作法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」または「M」に合わせます。

2 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、SETUP にカーソルを合わせます。

4 十字ボタンの ▷ で、REC VIEW を選択します。

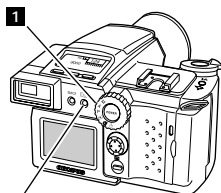
5 十字ボタンの △ ▽ で、表示時間をAUTO、5秒、OFFから選択します。

6 [OK]ボタンを押します。

メモ **AUTOに設定すると撮影した画像をカードに記録している間、液晶モニタに画像が表示されます。また、設定した時間にかかわらず画面表示中にシャッターボタン／ズームレバーの操作を行うと、確認終了とみなし画面表示を終了します。**

スタンバイまでの時間を設定する（撮影時）

スタンバイまでの時間を設定します。設定した時間、何も操作しないでいると、カメラがスタンバイ状態になります。
スタンバイ状態から、シャッターボタン、ズームレバー、パワーボタンのいずれかを操作すると、再び撮影できる状態に戻ります。
スタンバイまでの時間は撮影時のみでなく再生時にも同じようにスタンバイ状態に入ります。この時パワースイッチを操作すると再生状態に戻ります。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」または「M」に合わせます。

2 [ ]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、SETUP にカーソルを合わせます。

4 十字ボタンの ▷ で、SLEEP を選択します。

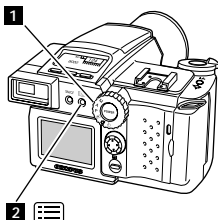
5 十字ボタンの △ ▽ で、スタンバイ状態になるまでの時間を1～10分、OFFから選択します。

6 ［OK］ボタンを押します。

メモ
- **スタンバイ状態が続くとカメラの電源が自動的にOFFになります。**
- **別売のACアダプタ（C-6AC、C-7AC）を使用している場合、自動的にOFFにはなりません。**

日付／時刻を設定する

カメラの日付や時刻を設定します。
撮影した日付と時刻は、画像に記録されます。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」または「M」に合わせます。

2 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、🕘 にカーソルを合わせます。

4 年月日の並び順を設定します。十字ボタンの ▷ で、⇔ にカーソルを合わせ、△ ▽ で並び順を指定し、[OK]ボタンを押して確定します。
「月・日・年」「年・月・日」「日・月・年」の3種類から選択できます。

5 日付と時刻を設定します。

十字ボタンの ▷ で日付にカーソルを合わせ、△ ▽ で数値を設定し、[OK]ボタンを押して順に確定します。

△：数値を増加させます。
▽：数値を減少させます。

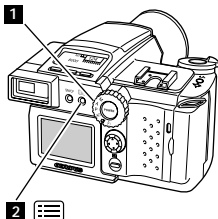
設定をキャンセルするには、設定の途中で［］メニューボタンを押します。

メモ

- **年月日の並び順を変更した場合は、印刷予約される年月日の並び順も変わります。**
- **記録した日付は、パソコンなどで加工すると、加工した日付・時刻に変更されてしまいます。C2500Lで記録した日付・時刻情報をあらためて確認したい場合は、別売のパソコン接続キットに同梱のCAMEDIA Masterを使用してください。**

液晶モニタの情報表示の有無を設定する

露出やシャッタースピードなどの情報を液晶モニタに表示するかしないかを指定できます。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」または「M」に合わせます。

2 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、DISP SETUP にカーソルを合わせます。

4 十字ボタンの ▷ で、REC INFO を選択します。

5 十字ボタンの △ ▽ で、「ON」(表示する)または「OFF」(表示しない)から選択します。

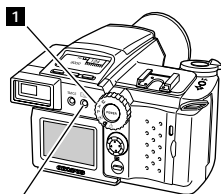
6 [OK]ボタンを押します。
表示の有無が確定します。

メモ

- **撮影記録前の撮影情報は、シャッターボタンを半押ししている間液晶モニタに表示されます。**

距離表示単位を設定する

マニュアルフォーカスを使用して撮影する際の、距離の表示単位を変更します。
距離はメートル(m)またはフィート(ft)で表示することができます。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」または「M」に合わせます。

2 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、DISP SETUP にカーソルを合わせます。

4 十字ボタンの ▷ で、m/ft を選択します。

5 十字ボタンの △ ▽ で、表示する距離の表示単位を「m」または「ft」から選択します。

6 [OK]ボタンを押します。
距離の単位が確定します。

SQの画像サイズを指定する

画質でSQを選択した場合、保存する画像の大きさを選択することができます。
画像サイズを小さくすると、カードにより多くの写真を保存することができます。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。**

2 **[ ]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 **十字ボタンの △ ▽ で、 に カーソルを合わせます。**

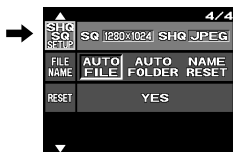
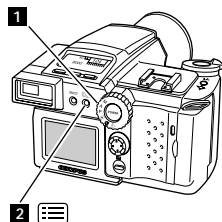
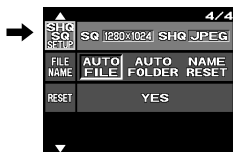
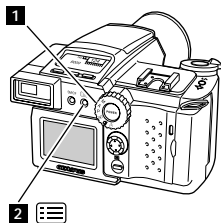
4 **十字ボタンの ▷ で、 SQ 1280×1024 を選択します。**

5 **十字ボタンの △ ▽ で、画像サイズを「640×512」または「1280×1024」から選択します。**
設定をキャンセルするには[ ]メニューボタンを押します。

6 **[OK]ボタンを押します。**
SQの画像サイズが設定され、カーソルが に戻ります。

いろいろな機能を使ってみる

SHQの画像タイプ（JPEG/TIFF）を指定する

画質でSHQを選択した場合、保存するファイルのタイプを圧縮（JPEG）または非圧縮（TIFF）で指定することができます。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」、または「M」に合わせます。

2 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、SHQ SQ SETUP にカーソルを合わせます。

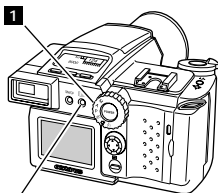
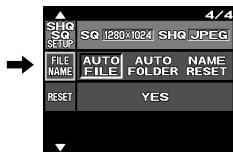
4 十字ボタンの ▷ で、 SHQ JPEG を選択します。

5 十字ボタンの △ ▽ で、画像タイプを「JPEG」または「TIFF」から選択します。
設定をキャンセルするには[☰]メニューボタンを押します。

6 [OK]ボタンを押します。
SHQの画像タイプが設定され、カーソルが SHQ SQ SETUP に戻ります。

ファイル名、フォルダ名の付け方

C-2500Lで記録される画像のファイル名、フォルダ名はそれぞれファイルNo.:0001〜9999、フォルダNo.:100〜999です。ファイル名、フォルダ名の付け方にはAUTO FILE、AUTO FOLDER、NAME RESETの3種類があり、それぞれメニューの「FILE NAME」の項目から選択することができます。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」または「M」に合わせます。

2 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、FILE NAME にカーソルを合わせます。

4 十字ボタンの ◁ ▷ で、FILE NAMEモードを「AUTO FILE」、「AUTO FOLDER」、「NAME RESET」から選択します。
設定をキャンセルするには[☰]メニューボタンを押します。

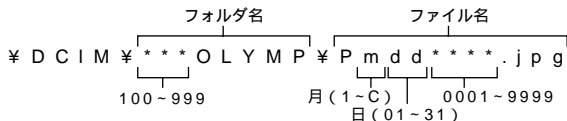
5 [OK]ボタンを押します。
FILE NAMEモードが設定されカーソルが FILE NAME に戻ります。

フォルダ名、ファイル名について

C-2500Lで記録される画像にはフォルダ名、ファイル名が次のように付けられます。

フォルダ名　ファイル名

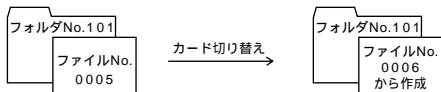
\DCIM***OLYMP\Pmdd****.jpg

100～999　月（1～C）　日（01～31）　0001～9999

※ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

各モードでのフォルダ名、ファイル名の付け方

●AUTO FILE

カードを入れ替えたとき、またはスマートメディアとコンパクトフラッシュを切り替えたときに、フォルダNo.はそのままで、ファイルNo.が前に使っていたカードに記録されていたNo.の続きの番号になります。

（例）

パソコンに画像単位でコピーするときに複数のカードにまたがって大量に撮影をしても、ファイルNo.が重複しません。ただし9999枚以上撮影すると0001に戻ります。

AUTO FILE機能では、画像ファイルNo.が9999枚までならばカードの切り替え、カードの入れ替えを行なっても、ファイル番号はリセットされることなく連番で記録されていきます。

カードの切り替え（[SM/CFボタン]）かカードの入れ替え（カードカバーを開閉すると、実際にはカードを替えていなくても、入れ替えが行われたと認識されます）を行うと、カメラ本体は、その直前に記録された画像のファイル名を記憶していて、次に選択されたカードにも、前回撮影のファイルNo.と連続したNo.のファイルを記録しようとします。
カメラは、新しいカード内の、最大No.のフォルダ内にある最大No.のファイルを検索し、そのNo.が前回撮影のファイルNo.より小さければ、前回撮影のファイルNo.に+1されたファイルNo.で、新しい画像を記録します。

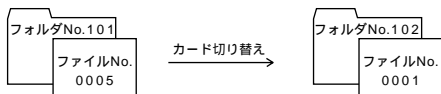
また、新しいカード内の最大のファイルNo.が前回撮影のファイルNo.より大きい、あるいは同じなら、新しいカード内に新規にフォルダを作成し、そのフォルダ内に、最大No.に+1されたファイルNo.で、新しい画像を記録します。（このとき新規に作成されるフォルダのNo.は、そのカード内の最大No.のフォルダに+1されたNo.になります）

ファイルNo.が9999に達した場合は、自動的に新規フォルダが作成され、新しい画像はそのフォルダの中に0001のファイルNo.で記録されます。このとき新規に作成されるフォルダのNo.は、そのカード内の最大No.のフォルダに+1されたNo.になります。

・フォルダ番号が999に達した場合には自動的に"NAME RESET"モードに切り替わります。詳しくは"AUTO FILE"およびAUTO FOLDER機能使用時の注意事項"を参照してください。
・最大フォルダ番号のフォルダ名が「＊＊＊OLYMP」以外のときは、新たに「＊＊＊OLYMP」フォルダを作成します。

●AUTO FOLDER

カードを入れ替えたとき、またはスマートメディアとコンパクトフラッシュを切り替えたときに、フォルダNo.のみが更新され、ファイルNo.は0001に戻ります。

(例)

パソコンにフォルダ単位でコピーすると、撮影順にフォルダを並べることができます。
フォルダ内のファイルNo.がフォルダ毎に0001から始まるので、写真フィルムの感覚でデータを管理することができます。

AUTO FOLDER機能では、フォルダで区切ることにより、フォルダ単位で画像を整理することができます。新規フォルダの作成されるタイミングは以下の通りです。

1．カメラが記録モード（モードダイヤルがPまたはAまたはM）のときに、カードを切り替えて撮影したとき（[SM/CFボタン]。一方のカードが装填されていなくても、ボタンを押すとカードは切り換わったと認識されます）

2．カメラが記録モード（モードダイヤルがＰまたはＡまたはM）のときに、カードを入れ替えて撮影したとき（カードカバーを開閉すると、実際にはカードを替えていなくても、入れ替えが行われたと認識されます）
3．カメラの電源を入れてから最初に撮影したとき（あるいはスタンバイ状態から復帰して最初に撮影したとき）

カメラは上記１、２、３の操作が行われる直前に選択されていたフォルダNo.を記憶していて、新規作成するフォルダに、連続するNo.を振ろうとします。入れ替えや切り替えされたカード（あるいは電源を入れてはじめて撮影するカード）内の最大No.のフォルダを検索し、操作直前のフォルダのNo.と比較して、大きい方のNo.（同じならそのNo.）に+１されたNo.のフォルダを新規作成します。

フォルダが新規作成されてからは、上記１、２、３の操作を行わない限りファイルはそのフォルダの中に０００１のNo.から連番で記録されていきますが、ファイルNo.が９９９９に達した場合は、自動的に新規フォルダが作成され、新しい画像はそのフォルダの中に０００１のファイルNo.で記録されます。このとき新規に作成されるフォルダのNo.は、そのカード内の最大No.のフォルダに+１されたNo.になります。

注意　フォルダ番号が９９９に達した場合には自動的に"NAME RESET"モードに切り替わります。詳しくは"AUTO FILEおよびAUTO FOLDER機能使用時の注意事項"を参照してください。

●NAME RESET

NAME RESET機能では、カメラは画像のファイルNo.は記憶せず、カード内の最大No.のフォルダ内の最大No.のファイルの後に連番でファイルを記録していきます。カードの入れ替えや差し替え、電源のOFF/ONを行っても、その都度選択されているカード内のNo.に従って記録します。
AUTO FILE機能やAUTO FOLDER機能を使用した後、フォルダNo.とファイルNo.を最初の状態（フォルダNo.＝１００、ファイルNo.＝０００１）に戻すには、NAME RESET機能に切り替えてからカードをフォーマットする必要があります。フォーマットでなく全コマ消去を行った場合には、一旦カメラの電源をOFF/ONしてからNAME RESET機能で撮影してください。

●AUTO FILE およびAUTO FOLDER機能使用時の注意事項

・AUTO FILE、AUTO FOLDERモードの自動切り替え機能：ファイルネームモードを"AUTO FILE"または"AUTO FOLDER"に設定して撮影を行なっていて、選択しているカードのフォルダ番号が999となった場合には、ファイルネームモードは自動的に"NAME RESET"に切り替わります。それ以降は、メニューにて"AUTO FILE"または"AUTO FOLDER"に設定しても自動的に"NAME RESET"に設定されます。（メニューで"AUTO FILE"または"AUTO FOLDER"にカーソルを合わせて[OK]ボタンを押しても自動的に"NAME RESET"が選択され、メニューの表示状態も"NAME RESET"が選択された状態となります。）
すでにフォルダ番号が999であるフォルダが存在するカードをカメラに装填し、そのカードを選択した場合も、その時点でファイルネームモードは自動的に"NAME RESET"に切り替わります。また、ファイルネームモードは一旦"NAME RESET"モードになると自動的に"AUTO FILE"または"AUTO FOLDER"に戻ることはありません。カード上に999フォルダがない状態でメニューにより"AUTO FILE"または"AUTO FOLDER"へ設定してください。

・カード残量なし表示と対処方法：AUTO FILE、AUTO FOLDERモードの自動切り替え機能により、フォルダ番号999、ファイル番号9999となると、カードに空きがあってもそのカードでの撮影は続行できなくなりコントロールパネルの撮影可能枚数表示部に"0"が点滅します。
この場合には、カード上の全てのファイルをPCなどを利用して別のメディアに保存し、カメラにて全消去またはフォーマットを行なうことにより撮影が可能となります。

・全消去またはフォーマットによりカード上の情報はすべて消失し復旧はできませんので、別メディアへの保存は確実に行なってください。

画像の撮影情報を表示する

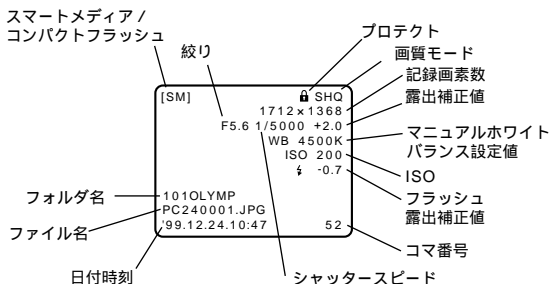
撮影した時の画像情報を液晶モニタに表示することができます。
撮影した日時はもちろんのこと、絞り値やシャッタースピード、露出補正など、撮影時のカメラの設定情報も表示します。

操作方法

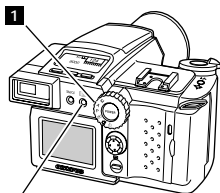
1 モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。

2 [SM/CF]ボタンを押して、画像が保存されているカードを選択します。
選択したカードに保存されている画像が、液晶モニタに表示されます。

3 [INFO]ボタンを押します。
液晶モニタに画像の撮影情報が表示されます。
撮影情報の表示を消すには再度[INFO]ボタンを押します。
再生時に[INFO]ボタンを押すと表示内容が3段階に順次切り替わります。「再生カード」→「再生カード・画質モード・プロテクト・日付時刻・コマ番号」→「シャッタースピード他撮影情報」

撮影情報表示画面

撮影に関する設定をリセットする

撮影に関する設定した内容をリセットします。どのような設定をしたか、わからなくなったときなどに使用します。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを「P」、「A」または「M」に合わせます。

2 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、RESET にカーソルを合わせます。

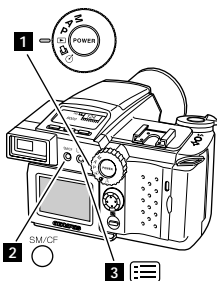
4 十字ボタンの ▷ で、「YES」を選択します。
設定をキャンセルするには[☰]メニューボタンを押します。

5 [OK]ボタンを押します。

●リセットされる項目と設定値

- 記録モード　：HQ
- ドライブモード　：速写（単写）
- フォーカスモード　：ノーマル(AF)
- クイックフォーカス　：2.5m
- フラッシュモード　：AUTO
- 露出補正　：±0
- フラッシュ発光量補正　：±0
- 測光モード　：中央重点
- WB　：AUTO
- フラッシュシンクロ　：先幕シンクロ効果
- シャープネス　：ノーマル
- ISO　：100

自動再生で表示する

スライドショーのように1枚ずつ自動的にコマ送りをして、撮影した画像を表示することができます。

操作作方法

1 **モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。**

2 **[SM/CF]ボタンを押し、画像が保存されているカードを選択します。**
選択したカードに保存されている画像が表示されます。

3 **[☰]メニューボタンを押します。**
メニューが表示されます。

4 **十字ボタンの △ ▽ で、 にカーソルを合わせます。**

5 **十字ボタンの ▷ で、 START を選択します。**

6 **[OK]ボタンを押します。**
約5秒ごとに画像がコマ送りで表示されます。

メモ

- **カメラがスマートメディア／コンパクトフラッシュから画像を読み出している途中でも、十字ボタンの ▷ を押すと、次の画像が表示されます。◁ を押すと一つ前の画像が表示されます。**
- **自動再生を途中で止める場合は、[☰]メニューボタンを押します。**
- **インデックス表示での自動再生もできます。**

画像をコピーする

撮影した画像をコピーします。スマートメディアからコンパクトフラッシュ、コンパクトフラッシュからスマートメディアへとコピーすることができます。コピーを始める前に、スマートメディアおよびコンパクトフラッシュの両メディアをセットしてください。
画像のバックアップが簡単に行えます。
DCF（Design rule for Camera File system）形式の画像のみコピーできます。

画像を１枚コピーする（１枚コピー）

画像を１枚のみ他のメディアにコピーします。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。**

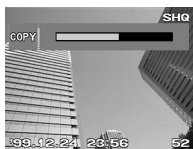
2 **[SM/CF]ボタンを押し、画像が保存されているカード（コピー元）を選択します。**

3 **[☰]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

4 **十字ボタンの △ ▽ で、COPY にカーソルを合わせます。**

5 **十字ボタンの ▷ で、□ を選択します。**

6 **[OK]ボタンを押します。**

7 **十字ボタンで、コピーする画像を選択します。**

8 **[OK] ボタンを押します。**
液晶モニタにコピー中の表示がでます。

コピーが終わると、次のコピーが行えます。
コピーモードから抜ける場合は、[ ]メニューボタンを押します。

メモ **コピーされる画像（主画像）に対する音声やサムネールのファイルが同時に記録されている場合、それらのファイルも同時にコピーされます。**

画像を全コマコピーする（全画像コピー）

画像を全て他のメディアにコピーします。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。**

2 **[SM/CF]ボタンを押し、画像が保存されているカード（コピー元）を選択します。**

3 **[☰]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

4 **十字ボタンの △ ▽ で、COPY にカーソルを合わせます。**

5 **十字ボタンの ◁ ▷ で、ALL を選択します。**

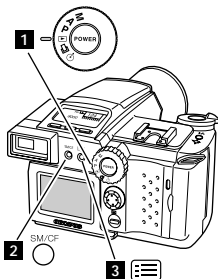
6 **[OK]ボタンを押します。**

注意
- **コピーした画像のファイル名は変わります。撮影年月日は変わりません。**
- **コピー先の残容量が不足している場合は「CARD FULL」警告が出ます。また、コピー先のスマートメディアにライトプロテクトシールが貼られている場合は「WRITE PROTECT」警告が出ます。[OK]または[☰]メニューボタンを押すと再生モードに戻ります。**

いろいろな機能を使ってみる

画像を全コマ消去する

スマートメディアまたはコンパクトフラッシュに保存されている画像を全部削除します。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。**

2 **[SM/CF]ボタンを押し、画像を全コマ消去するカードを選択します。**

3 **[☰]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

4 **十字ボタンの △ ▽ で、SM SETUP（コンパクトフラッシュを選択したときは CF SETUP）にカーソルを合わせます。**

5 **十字ボタンの ◁ ▷ で、全コマ消去アイコンを選択します。**

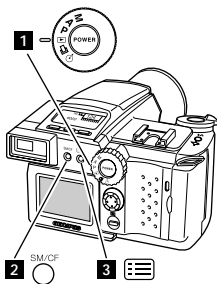
6 **[OK]ボタンを押すと確認画面が表示されます。**

7 **「YES」を選択し、[OK]ボタンを押します。**
カードに保存されている画像がすべて削除されます。

メモ
- **プロテクトのかかっていない画像だけがすべて削除されます。**
- **プロテクトのかかっている画像も消去したい場合は、プロテクトを外してから操作を行うか、カードをフォーマットしてください。**
- **DCF(Design rule for Camera File system)形式の画像のみ消去されます。他の形式の画像を消去するときは1コマずつ消去してください。**

スマートメディア／コンパクトフラッシュをフォーマットする

スマートメディア／コンパクトフラッシュをフォーマットします。
パソコンや当社以外のデジタルカメラでフォーマットされたカードは、C-2500Lであらかじめフォーマットしてからお使いください。
スマートメディアやコンパクトフラッシュをフォーマットすると、カードに保存されているデータはすべて消えてしまいます。

- **ライトプロテクトシールを貼ったスマートメディアはフォーマットできません。**
- **フォーマットを行うと、プロテクト（🔒）されている画像も消えてしまいます。**

操作方法

1 モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。

2 [SM/CF]ボタンを押して、フォーマットするカードを選択します。

3 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

4 十字ボタンの △ ▽ で、SM SETUP にカーソルを合わせます。

5 **十字ボタンの ▷ で、 を選択します。**

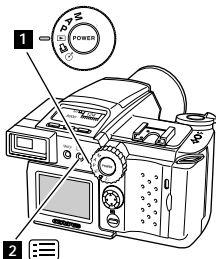
6 **[OK]ボタンを押します。**
確認画面が表示されます。

7 **十字ボタンの ◁ で、[YES]を選択します。**

8 **[OK]ボタンを押します。**
フォーマットが始まります。

液晶モニタの明るさを設定する

液晶モニタの明るさを調節することができます。

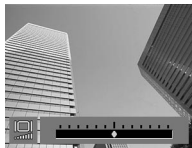
操作作法

1 モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。

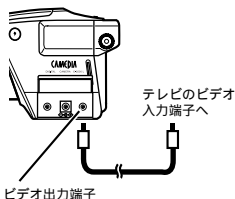
2 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、 を選択します。

4 十字ボタンの ▷ を押すと設定モードになります。

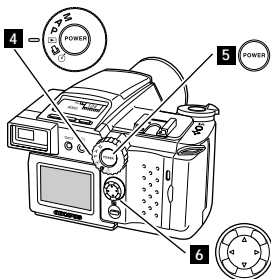
5 十字ボタンの ▷ を押すとより明るく、◁ を押すとより暗くなります。

6 希望の明るさが設定できたら、[OK]ボタンを押します。

テレビに画像を表示する

付属のビデオケーブルを使うことで、撮影した画像をテレビに表示することができます。
パソコンがない場合などでも、大きな画面で見ることができます。

操作方法

1 ビデオケーブルをカメラのビデオ出力端子に差し込みます。

2 ビデオケーブルのもう片方をテレビのビデオ入力端子に差し込みます。

注意 ・接続の前にテレビとカメラの電源が切れていることを確認してください。

3 テレビの電源を入れます。

4 モード選択ダイヤルを ▶ に合わせます。

5 カメラの電源を入れます。
テレビに画像が表示されます。

6 十字ボタンで再生する画像を選択します。

メモ
- テレビの調整により、画像が中央からずれることがありますが、故障ではありません。
- ご使用のテレビによっては画像の外枠に黒枠が表示されることがあります。このような状態でテレビからビデオプリンタに出力すると黒枠が目立つことがあります。
- ACアダプタ(別売)の使用をおすすめします。

プリントの設定をする

スマートメディアやコンパクトフラッシュに保存されている画像を、プリンタでプリントして楽しむことができます。

プリントの設定について

このカメラで撮影し、スマートメディア／コンパクトフラッシュに保存されている画像をプリントするには次の方法があります。

・C-2500Lでカードに保存した画像にプリントする枚数や日付時刻を記憶させます。(プリント予約）プリント予約をしたカードをDPOF対応プリンタに挿入すると、プリントの設定を行なわなくても自動的に指定した画像がプリントされます。
　プリンタで出力する以外にも、DPOFシステムでプリントサービスを行なっているお店などにカードをお持ちになると、プリントの指示をしなくても、プリント予約を行った画像を自動的にプリントすることができます。ただし、予約できる画像は998枚までとなります。

・パソコン接続キットやフラッシュパス、スマートメディアアダプタやコンパクトフラッシュアダプタを使ってパソコンに取り込み、パソコンに接続されているプリンタから出力できます。

・オリンパス製デジタルプリンタP-300など、カメラに直接プリンタを接続してダイレクトプリントを行なうプリンタではプリントできません。

・プリントしたい枚数をカメラで予め選択できます。(P.142)
・デジタルカメラのビデオ出力端子にP-330を接続して印刷した場合、プリンタの性能を充分に発揮することができません。

●P-330使用時の注意

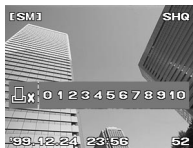
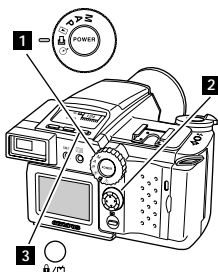
スマートメディアを使ってP-330でプリントをおこなう場合、次の制限事項があります。

・SHQのJPEGモードで撮影した画像はプリントできません。
・1枚のスマートメディア内でプリント可能なファイル数は256枚です。256枚を超えた分のファイルについては認識できません。
・DPOFによる2枚以上の予約プリント、インデックスプリント、日付時刻のプリントはできません。P-330側で設定してください。

プリント予約をする

スマートメディアやコンパクトフラッシュにプリントの枚数などの情報を記憶させます。これをプリント予約といいます。
プリント予約は、DPOF対応のプリンタやDPOFシステムでプリントサービスを行っているお店でのプリントにのみ有効です。

プリントの枚数を指定する

プリンタなどで何枚出力するのかを保存されている画像に記憶させます。プリントの枚数を記憶させたスマートメディアやコンパクトフラッシュをプリンタに挿入するだけで、記憶させた枚数をプリントします。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを 凸 に合わせます。**

2 **十字ボタンで、プリント予約する画像を選択します。**

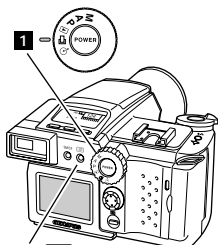
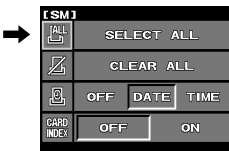
3 **[🔒 / ☑] 画像選択ボタンを押します。**
液晶モニタにプリント枚数を指定する画面が表示されます。

4 **十字ボタンの ◁ ▷ で、プリント枚数を選択します。**

5 **[OK]ボタンを押します。**
プリント枚数は液晶モニタに表示されている画像の右上にマーク表示されます。
1枚印刷の場合は緑のマーク、複数枚印刷の場合は赤のマークと指定した枚数が表示されます。

・プリント予約をキャンセルする場合は、キャンセルする画像を表示させてから、0を選択するか、メニューから「CLEAR ALL」を選択します。

全コマプリント予約をする

予約した時点で選ばれたカード内に保存されているすべての画像にプリント予約を指定します。

操作方法

1 モード選択ダイヤルを 凸 に合わせます。

2 [☰]メニューボタンを押します。
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ で、 に カーソルを合わせます。

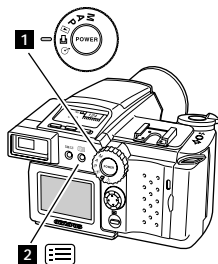
4 十字ボタンの ▷ で、「SELECT ALL」を選択します。

5 [OK]ボタンを押します。

・全てのプリント予約をキャンセルする場合は で「CLEAR ALL」を選択し、[OK]ボタンを押します。

いろいろな機能を使ってみる

日付／時刻をプリントする

プリント予約を設定した画像に、撮影した日付や時刻をプリントすることができます。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを 凸 に合わせます。**

2 **[☰]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

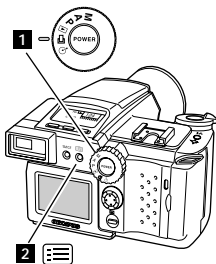
3 **十字ボタンの △ ▽ で、 にカーソルを合わせます。**

4 **十字ボタンの ▷ で、日付をプリントする場合は「DATE」、時刻をプリントする場合は「TIME」を選択します。**
「OFF」を選択すると、日付や時刻はプリントされません。

5 **[OK]ボタンを押します。**

注意 **日付／時刻の印刷機能はプリンタの仕様により異なるため、印刷できない場合もあります。**
また印刷位置とフォントもプリンタの仕様により異なります。
詳細はプリンタの取扱説明書をお読みください。

インデックスプリント予約をする

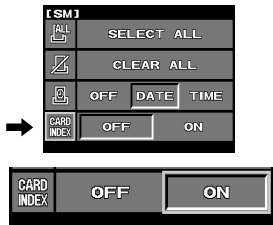
予約した時点でカード内の全ての画像をインデックスプリントで印刷するようにプリント予約します。

操作方法

1 **モード選択ダイヤルを 凸 に合わせます。**

2 **[☰]メニューボタンを押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

3 **十字ボタンの △ ▽ で、CARD INDEX にカーソルを合わせます。**

4 **十字ボタンの ▷ で、「ON」を選択します。**
インデックスプリント予約をキャンセルする場合は、「OFF」を選択してください。

5 **[OK]ボタンを押します。**

メモ

- **インデックスプリント予約後に撮影された画像は、インデックスプリント予約されません。予約されていない画像がある場合は、メニューのCARD INDEXの表示が「CARD INDEX ON /OFF」と表示されます。全ての画像をインデックスプリント予約したい場合は、設定をやり直してください。**

CAMEDIA

4

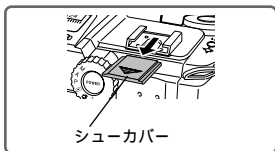
より良い写真を撮るために

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

専用外部フラッシュFL-40(別売)を使って撮影する

別売の専用外部フラッシュを使うことによって、多彩なフラッシュ撮影を行うことができます。
専用外部フラッシュのみを使っての撮影および、内蔵フラッシュと併用して撮影することもできます。
内蔵フラッシュの準備や撮影可能範囲、フラッシュモードについては『使ってみましょう』の『フラッシュを使って撮影しましょう』(P.49)を参照してください。

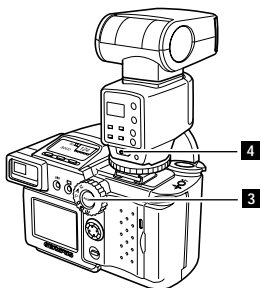
専用外部フラッシュの接続のしかた

専用外部フラッシュを接続します。

シューカバー

操作方法

1 シューカバーを取り外します。
カメラを構えるように左手で持ち、シューカバーの両端を親指と人差し指でつまみながら、矢印の方向に人差し指で押して外してください。

2 外部フラッシュFL-40を取り付けます。
フラッシュの取り付け方法については、外部フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

メモ
- **カメラにはホットシューの保護のためにカバーが取り付けられています。専用外部フラッシュを使用する場合は、カバーを取り外してください。カバーを取り外した後は、カバーをなくさないように保管し、専用外部フラッシュを取り外した後は、再度カバーを取り付けておいてください。**

3 カメラの電源を入れます。

4 外部フラッシュの電源を入れます。

メモ
・取り付け時、取りはずし時に外部フラッシュの状態により、誤発光することがあります。
・近距離撮影（1.5m以内）の時は、白飛びおよびけられ防止のため内蔵フラッシュのみのご使用をおすすめします。
・スーパーマクロモードでは専用外部フラッシュの電源を入れておくことで強制発光に設定することができます。ただし、レンズ部により影がでたり正しく調光できないことがあります。発光させたくない場合は専用外部フラッシュの電源をOFFにしてください。

注意
C-2500Lと外部フラッシュを接続してご使用になる場合は次の点に注意してください。
・近距離撮影時、露出がオーバーになる場合があります。外部フラッシュで露出を補正するか、内蔵フラッシュをお使いください。
・内蔵フラッシュと外部フラッシュFL-40を両方発光させる場合は、内蔵フラッシュは補助光源としての発光になるため外部フラッシュの光量が足りないと露出アンダーとなります。
・FL-40以外の外部フラッシュを使った撮影は、撮影時の状態、使用するフラッシュ、カメラの設定などによって、撮影結果が変わります。専用以外の外部フラッシュを用いて撮影した画像については保証しかねますのでご了承ください。

「P」／「A」モードで専用外部フラッシュを使う

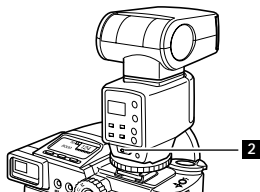
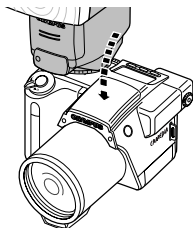
「P」または「A」モードで専用外部フラッシュを使う場合、C-2500Lのフラッシュモードを自動的に検出するため内蔵フラッシュと同様に使うことができます。
また、内蔵フラッシュと専用外部フラッシュを同時に使うこともできます。

●専用外部フラッシュのみを使う

「P」／「A」モードで専用外部フラッシュのみを使う場合は、内蔵フラッシュは閉じてください。内蔵フラッシュと同じように使うことができます。
専用外部フラッシュを使うことによって、内蔵フラッシュでは光が届かない遠くの被写体を照らすこともできます。
専用外部フラッシュを発光禁止にする場合は専用外部フラッシュの電源をOFFにしてください。
内蔵フラッシュのフラッシュモードについては『使ってみよう』の『フラッシュを使って撮影しましょう』(P.49)を参照してください。

・オート発光（P.52）
・赤目軽減発光 👁（P.53）
・強制発光 ϟ（P.55）

専用外部フラッシュを使って撮影する

操作方法

1 内蔵フラッシュが閉じていることを確認します。
内蔵フラッシュが上がっている場合は、閉じます。

2 専用外部フラッシュの電源を入れます。
専用外部フラッシュを発光禁止にする場合は専用外部フラッシュの電源をOFFにしてください。

3 カメラ本体のフラッシュモードを選択します。
フラッシュモードには「オート発光」「赤目軽減モード」「強制発光モード」があります。
フラッシュモードの切り替えについては、『フラッシュモードの切り替え』（P.51）を参照してください。

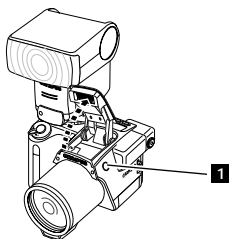
4 シャッターボタンを半押しします。
ファインダー横のオレンジランプと緑ランプが点灯します。

5 シャッターボタンを押し切ります。
専用外部フラッシュが発光します。

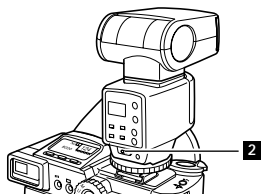
6 発光確認をします。
適正発光なら専用外部フラッシュのオートチェックランプが点滅します。

●専用外部フラッシュと内蔵フラッシュの併用

専用外部フラッシュと内蔵フラッシュを併用して撮影することができます。専用外部フラッシュをバウンスさせ内蔵フラッシュでキャッチライト効果を得るなど、高度なフラッシュ撮影を行うことができます。

操作方法

1 内蔵フラッシュを上げます。

2 専用外部フラッシュの電源を入れます。

専用外部フラッシュを発光禁止にする場合は専用外部フラッシュの電源をOFFにしてください。

3 カメラ本体でフラッシュモードを選択します。

フラッシュモードには「オート発光」「赤目軽減モード」「強制発光モード」があります。

フラッシュモードの切り替えについては、『フラッシュモードの切り替え』(P.51)を参照してください。

4 シャッターボタンを半押しします。

ファインダー横のオレンジランプが点灯します。

5 シャッターボタンを押し切ります。

専用外部フラッシュと内蔵フラッシュが発光します。

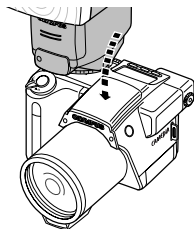
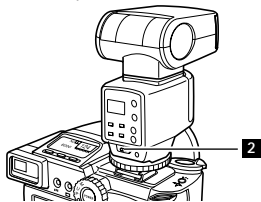
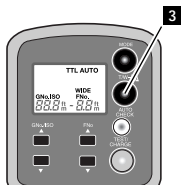
「M」モードで専用外部フラッシュを使う

「M モード」で専用外部フラッシュを使う場合は、専用外部フラッシュで「TTL-AUTO」もしくは「マニュアル」を選択することができます。

●専用外部フラッシュのみを使う

専用外部フラッシュのみを発光させる場合は、内蔵フラッシュを閉じてください。
「M モード」では、フラッシュモードの「オート発光」「赤目軽減発光」は使うことができません。専用外部フラッシュの電源をONにすると強制発光モードとなります。

操作方法

1 内蔵フラッシュが閉じていることを確認します。
内蔵フラッシュが上がっている場合は、閉じます。

2 専用外部フラッシュの電源を入れます。
専用外部フラッシュが自動的に「強制発光」となります。

3 専用外部フラッシュのコントロールパネルで「TTL-AUTO」または「MANUAL」を選択します。
専用外部フラッシュでのモードの選択方法については、専用外部フラッシュの取扱説明書を参照してください。

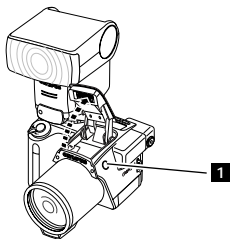
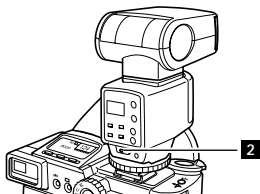
4 シャッターボタンを半押しします。
ファインダー横のオレンジランプと緑ランプが点灯します。

5 シャッターボタンを押し切ります。
専用外部フラッシュが発光します。

●「M」モードでの専用外部フラッシュと内蔵フラッシュの併用

専用外部フラッシュと内蔵フラッシュを併用して撮影することができます。専用外部フラッシュをバウンスさせ内蔵フラッシュでキャッチライト効果を得るなど、高度なフラッシュ撮影をおこなうことができます。

操作方法

1 内蔵フラッシュを上げます。

2 専用外部フラッシュの電源を入れます。

専用外部フラッシュが自動的に「強制発光」となります。

4 シャッターボタンを半押しします。
ファインダー横のオレンジランプと緑ランプが点灯します。

5 シャッターボタンを押し切ります。
専用外部フラッシュと内蔵フラッシュが発光します。

市販の外部フラッシュを接続する

このカメラで使える外部フラッシュについて
別売の専用外部フラッシュをお使いください。ただし、以下の条件を満たす市販の外部フラッシュも使用できます。

1. 外部フラッシュ使用時の発光量は外部フラッシュ側で調節する必要があります。外部フラッシュをオートモードでお使いになる場合は、オートF値をF2.8とF5.6の設定ができる製品をお使いください。

2. 外部フラッシュのオートF値をF2.8もしくはF5.6の設定にしても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合は、外部フラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで撮影距離からガイドナンバーを計算してお使いください。ただし、オートでのF値、ISO値のシフトは１EV刻みが一般的で、それ以下の露出補正はできません。カメラ側のフラッシュ発光量補正は外部フラッシュの撮影では無効になります。

3. 照射角度は35mmフィルム換算で焦点距離35mmレンズ以上をカバーする製品をご使用ください。ただし、ワイド近距離撮影においては画面下がけられる場合がありますので、フラッシュの配光を広げるワイドアダプタが付属されているものをお使いになることをおすすめします。

4. フル発光時の閃光時間が1/200秒より短い製品をご使用ください。リングフラッシュ等閃光時間が長いものは光の一部が露出に寄与しなくなる場合があります。

5. FL-40以外の通信機能付フラッシュを接続するとフラッシュまたはカメラにダメージを与えることがあります。

注意　**市販の外部ストロボを低輝度時に「P」／「A」モードで撮影するとシャッター速が遅くなり手ぶれしやすくなります。低輝度時ご使用の際は、「M」モードでシャッター速を1/40～1/100に設定してご使用いただくことをおすすめします。**

ピントを合わせる（フォーカスについて）

マニュアルフォーカス

オートフォーカスのピント合わせは、被写体のコントラストを利用しています。したがって、距離の異なるものがまじっている被写体や繰り返しのパターンが連続するもの、青空や壁などのコントラストがはっきりしないもの、スポットライトのように明るすぎるもの、水面などきらきら輝いているものなどは、オートフォーカスが迷ってピントが合いにくくなります。フォーカスロックを使ってピントを合わせるか、マニュアルフォーカスを使って手動でピントを合わせます。
オートフォーカスの苦手な被写体については『オートフォーカスの苦手な被写体』（P.44）を参照してください。
また、被写体のコントラストが少ないときや三脚を使って撮影するときなどは、フォーカスロックをしてから構図を整える作業がやりにくく、撮影操作が煩雑になるのでマニュアルフォーカスを使って手動でピントを合わせるようにしましょう。

1 [FOCUS] ボタンを押し、マニュアルフォーカスに設定します。

2 十字ボタンの △ ▽ で、被写体までのおおよその距離を設定します。

詳細は『マニュアルフォーカス』（P.76）を参照してください。

おきピン

走っている電車などを撮影するとき、走ってきている最中にピントを合わせていたのでは被写体が走りすぎてしまい、シャッターチャンスをのがしてしまいます。
そこで、走ってきている被写体が通りすぎる近くの目印でピントを合わせて、被写体がそこを通り過ぎる瞬間にシャッターボタンを押し切ります。

1 被写体が通りすぎる近くの目印にピントを合わせます。

2 シャッターボタンを半押ししたまま[OK]ボタンを押します。
ここでシャッターボタンをはなしてもフォーカスは固定されます。

3 被写体が走ってきたらシャッターボタンを押し切ります。
フォーカスが固定されたまま被写体に露出が合い撮影されます。

植物を近接撮影する

「マクロ」や「スーパーマクロ（WIDE使用時のみ）」機能を使うと、細い雌しべやおしべまでをしっかり撮影することができます。
通常の撮影では被写体に0.6mまでしか寄れませんが、「マクロ」は被写体に0.3mまで寄ることができます。また、「スーパーマクロ」を使うと、さらに被写体に2cmまで寄ることができます。
マクロ撮影では、通常の撮影に比べ被写体までの距離が圧倒的に近いため、ちょっとした手や被写体の動きが写真に反映し、ぶれてしまいます。しっかりと、両手で構えてください。三脚を使うと、より確実です。

●目的に応じてズームを使い分ける

背景に余分なものを入れずに自然な雰囲気で植物を撮影したい場合は、ズームのTELE（望遠）を使って撮影すると良いでしょう。
物の大小関係も見た目に近く撮影ができます。また、背景に余分なものが入らず、ぼけるので自然な雰囲気を出すことができます。

マクロ（TELE）

マクロ（WIDE）

●被写体がフレームの中央にないとき

被写体がフレームの中央にないときなどはピントが合いにくくなります。このようなときは、被写体を中央に置き、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてから、構図を変えて撮影します。

1 ファインダーをのぞき、撮影する被写体をオートフォーカスマークに合わせます。

2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
ピントが固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

3 構図を変え、シャッターボタンを押し切ります。

●近くのもの、被写体が小さすぎるとき

植物を接写するときなど、被写体が細かったり、小さすぎてピントが合いにくくなるときがあります。
このようなときは、被写体と同じ距離に仮の被写体を置いて、ピントを合わせます。

1 被写体の手前にピント合わせのため、仮の被写体を置きます。

2 ファインダーをのぞき、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
ピントが固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

3 シャッターボタンを半押ししたまま仮の被写体を取り除き、構図を決めシャッターボタンを押し切ります。

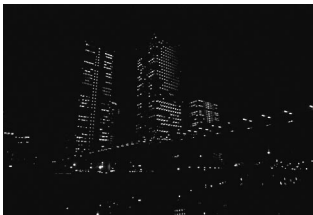
夜景を撮影する

普通の露出で夜景を撮影すると暗すぎて、夜景がきれいに写らないという現象がおこります。
これは、カメラの露出が自動で夜景も標準の明るさで露光してしまうからです。

夜景は適した露出にすることで撮影することができます。
「M」モードを使って、シャッタースピードを遅く設定しましょう。
ISOの感度は数値が大きくなればなるほど、短いシャッタースピードで撮影することができますが、画像が荒くなってしまうので、何枚か撮影して、適切なISO感度を選択するとよいでしょう。
ピントが合いにくいときは、マニュアルフォーカス(P.76)を使いましょう。
測光は広い範囲で測光する中央重点測光に設定します。

自動露出

長時間シャッター

夜景撮影はシャッタースピードを遅く設定するので、少しのぶれが画像に大きく影響してしまいます。
三脚を使って撮影することをおすすめします。
何枚か夜景を撮影して、適切な絞り値やシャッタースピードを見つけてより良い画像を撮影しましょう。

後幕シンクロ効果を使う

フラッシュを併用したスローシャッターで撮影する方法（スローシンクロ）の、露光時間の最後にフラッシュを発光させて撮影します。
夜間に走行中の自動車の写真を撮るとき、テールランプが尾を引くように撮影することができます。

C-2500Lでは、後幕シンクロを設定することによって簡単に撮影することができます。

後幕シンクロ効果

先幕シンクロ効果に設定することで、後幕シンクロ効果とは逆に走行中の自動車のヘッドライトが走行方向に流れるように撮影することもできます。

先幕シンクロ効果

スローシャッターで撮影するため、少しのぶれでも大きく影響してくるので、三脚を使って撮影すると良いでしょう。
詳細は『後幕シンクロ効果で撮影する』（P.110）を参照してください。

蛍光灯の下で自然な色で撮影する

蛍光灯や特殊な光源の下では全体の色バランスがくずれることがあります。蛍光灯の下で自然な色で撮影するには、C-2500Lの「ホワイトバランス」で「ワンタッチホワイトバランス」(P.102)を利用して基準となる色合いを変えることで、簡単に見たままの色で写すことができます。

用意するもの

・カメラ

・白い紙(A4サイズ以上のもの)

1 [☰]メニューボタンを押し、WBで[ワンタッチホワイトバランス]を選択します。

2 [OK]ボタンを押すと、ホワイトバランス値を設定する画面が表示されます。

3 白い紙を蛍光灯の光が当たるような壁に貼るか、人に持ってもらい、ファインダーいっぱいに入るようにして[OK]ボタンを押します。

液晶モニタに「GOOD」と表示され、基準となる色合いが設定されます。

4 設定ができたら、普通に蛍光灯の下で撮影します。

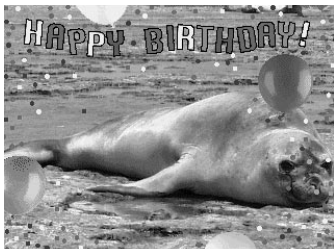
CAMEDIA

5

撮影した画像をパソコンで加工する

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

撮影した画像をパソコンで加工する

別売の画像処理ソフトを使って、撮影した写真をパソコン上で加工する方法などを紹介します。
ここでは、C-2500Lとパソコンの接続方法と、パソコン接続キットに添付のCAMEDIA Master1.11を使った加工方法を紹介します。

パソコンとの接続のしかた

別売のパソコン接続キットを使って、パソコンと接続すると、C-2500Lに挿入されているカードから直接パソコンに写真を読み込むことができます。ご使用のパソコンの機種によって、接続方法が異なります。

パソコンの使用環境

パソコンに接続してお使いになる場合は、お持ちのパソコンを確認のうえ、次の条件でご使用ください。（パソコン接続キットC-6KP使用の場合）

●DOS/V機（IBM PC/AT互換機）、NEC PC-9821及びPC98-NXシリーズ

OS	Windows 98/95/NT4.0
CPU	Windows 98 ：i486DX/66MHz以上 Windows 95/NT4.0:i486SX/33MHz以上（Pentium以上推奨）
ハードディスクの空き容量	20MB以上
メモリ	Windows 98/95 ：16MB RAM Windows NT4.0 ：24MB RAM
コネクタ	標準RS-232Cインターフェイス （NEC PC-9821及びPC98-NXシリーズー19200bps以上の通信速度が必要） DOS/V機（IBM PC/AT互換機）＝ D-SUB 9ピンコネクタ NEC PC-9821及びPC98-NXシリーズ＝D-SUB 25ピンコネクタ
モニタ	256色以上 640×480ドット以上 （推奨32000色以上）

●Apple Macintosh

CPU	68040以降
OS	漢字Talk7.5以上、MacOS7.6以上
ハードディスクの空き容量	20MB以上
メモリ	24MB以上
コネクタ	シリアルポート　ミニDin 8ピンコネクタ
モニタ	256色以上640×480ドット以上 推奨32000色以上

※C-2500LはUSBコネクタと直接接続することはできません。

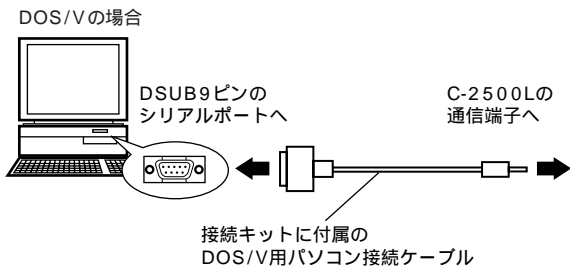
パソコンとの接続

パソコン(DOS/V機、NEC PC-9821シリーズ、Apple Macintosh)とC-2500Lを接続します。

1 **接続キットに添付されているCAMEDIA Master1.11を、あらかじめお持ちのパソコンにインストールしておきます。**
インストール方法についてはオンラインマニュアルを参照してください。

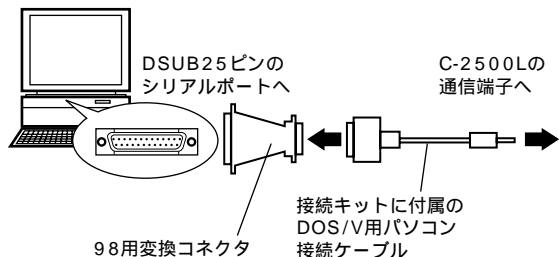
2 **パソコンとカメラの電源が切れていることを確認してください。**

3 **パソコン側の「COM1」「COM2」などと書かれているシリアルポートに、パソコン接続ケーブルを差し込みます。**

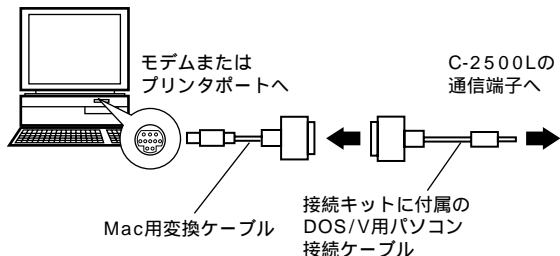
●DOS/Vの場合

> **注意**
> **・PC-98ノートパソコン(14ピンの場合)には、別売の変換アダプタ(PC-9821N-K04)が必要です。**

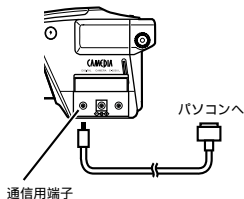
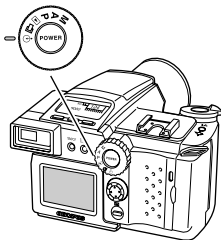
●**NEC PC-9821シリーズの場合**

パソコン側の「R S-2 3 2C」と書かれたシリアルポートに、9 8用変換コネクタを差し込みます。

シリアルポートに差し込まれている9 8用変換コネクタに、DOS/V用パソコン接続ケーブルを差し込みます。

●**Apple Macintoshシリーズの場合**

パソコン側のプリンタポートまたはモデムポートに、Macintosh用変換コネクタを接続します。

Macintosh用変換コネクタに、DOS/V用パソコン接続ケーブルを差し込みます。

4 カメラのコネクタカバーを開けます。

5 パソコン接続ケーブルのプラグをカメラ通信用端子に差し込みます。

6 カメラのモード選択ダイヤルを ⊖ に合わせます。

7 カメラの電源を入れます。

8 パソコンの電源を入れ、インストールしたCAMEDIA Master1.11を起動します。

> **注意** カメラとパソコンとの接続時には、ACアダプタの使用をおすすめします。

撮影した画像をパソコンに読み込む

CAMEDIA Master1.11で読み込む

別売のパソコン接続キットC-6KPに同梱されているCAMEDIA Master 1.11をパソコンにインストールすると、撮影した画像をシリアルケーブルを介してパソコンにダウンロードし、表示・加工・保存・その他いろいろな機能を楽しめます。
上記ソフトウェアには主に下記の5つの機能があります。インストール方法や操作手順については、ソフトウェアのオンラインマニュアルをご参照ください。

カメラとの通信
RS-232Cを介し、カメラ内画像ファイルのダウンロードを行います。また、カメラの各種設定（プロテクト設定・解除、データ消去、日付時刻の設定、その他設定変更等）もサポートしています。

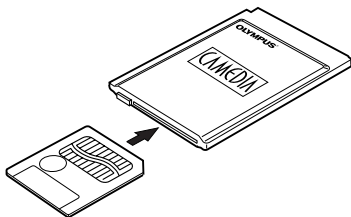
画像ビューワー
カメラからダウンロードした画像、ディスク上の画像ファイルのインデックス表示、単画面表示を行います。また、エクスプローラ風のフォルダ階層表示とドラッグ&ドロップによる操作で画像の管理が簡単に行えます。更にスライドショー（自動再生）もできます。

一括処理
インデックスウィンドウから画像の回転、フォーマット変換、リネーム等の一括処理が可能です。

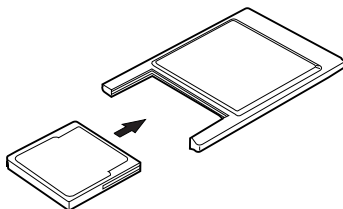
加工
回転（右90度、左90度、180度、任意角度）、色数変更、リサイズ、テキスト挿入、各種フィルター処理（明るさ、コントラスト、カラーバランス、シャープネス等）が可能です。

印刷
単画像印刷の他、単画像日付入り印刷、インデックス印刷、レイアウト印刷（3、4、6ショットを自動レイアウト）を行います。

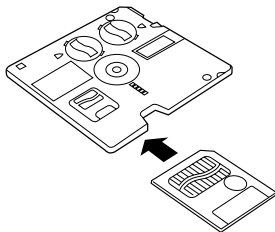
スマートメディア用PCカードアダプタを使って読み込む

PCカードスロットまたは外付PCカードドライブがあるパソコン*では、別売のPCカードアダプタ(MA-2)を使うとスマートメディアから直接画像を読み込むことができます。

＊詳しくは弊社カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

コンパクトフラッシュ用PCカードアダプタを使って読み込む

PCカードスロットまたは外付PCカードドライブがあるパソコン*では、市販のコンパクトフラッシュアダプタを使うとコンパクトフラッシュから直接画像を読み込むことができます。

＊詳しくは弊社カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

フロッピーディスクアダプタを使って読み込む

3.5インチフロッピーディスクドライブのあるパソコン*では、別売のフロッピーディスクアダプタFlashPath（MAFP-2）を使うと直接、スマートメディアから画像を読み込むことができます。

＊詳しくは弊社カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

スマートメディア/リーダ・ライタを使って読み込む

Windows98およびMacintosh OS 8.6のUSB対応パソコン*では、別売のスマートメディア/リーダ・ライタ（MAUSB-2）を使うと、データの転送を簡単かつ高速に行うことができます。

＊詳しくは弊社カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

撮影した画像をパソコン上で見る

撮影した画像をパソコンの上で見るには、パソコン接続キットC-6KPに添付のCAMEDIA Master1.11を使います。

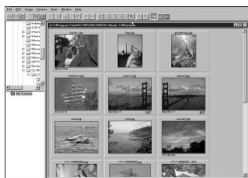
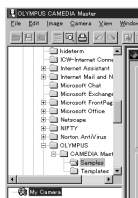
カードに保存されている画像を見る

カメラに挿入されているスマートメディア／コンパクトフラッシュに保存されている画像を、CAMEDIA Master1.11で見ることができます。

操作方法

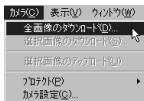
1 パソコンにインストールしたCAMEDIA Master1.11を起動します。

2 「マイカメラ」アイコンをクリックします。

保存されている画像が一覧で表示されます。

3 一覧の中で見たい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。
選択した画像が拡大して表示されます。

メモ **スマートメディアとコンパクトフラッシュの切り替えはカメラ側で行います。パソコンからは切り替えできません。**

カードに保存されている画像をパソコンに読み込む

カメラに挿入されているスマートメディア／コンパクトフラッシュに保存されている画像を、パソコンに読み込みます。

操作方法

1 パソコンにインストールしたCAMEDIA Master1.11を起動します。

2 メニューバーの[カメラ(C)]で[全画像のダウンロード(D)]を選択します。
カメラからパソコンに画像が読み込まれます。

メモ **パソコンに読み込んだ画像は、添付のCAMEDIA Master1.11以外にもJPEGを扱えるグラフィックソフト(Paint Shop Pro/Photo Shopなど)、インターネット閲覧ソフト(Netscape Communicator/Microsoft Internet Explorerなど)などのアプリケーションソフトウェアでも見ることができます。**

撮影した画像をパソコン上で加工する

撮影した画像をパソコン接続キットに添付のアプリケーションソフトで加工することができます。
画像の色調はもちろんのこと画像を合成したりすることができます。
ここではCAMEDIA Master1.11を使った加工方法の一部を紹介しますが、それぞれのアプリケーションソフトの機能でいろいろな加工方法をお楽しみください。

暗い画像を明るくする

撮影した画像を見ると、思っていたよりも暗いことがあります。撮影直後であれば再度撮影することも可能かもしれませんが、シャッターチャンスを逃すこともあります。
そんな時にはCAMEDIA Master1.11のワンタッチ補正を使うと、簡単に画像を明るくできます。

操作方法

1 明るくしたい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。
選択した画像が表示されます。

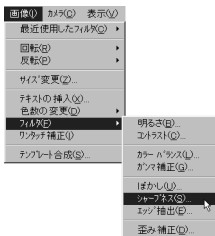
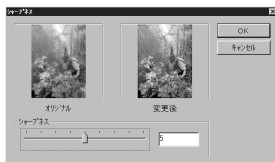
2 メニューバーの [画像 (I)] → [ワンタッチ補正 (I)] を選択します。

選択した画像が明るくなります。

ボケている画像を修正する

画像全体がはっきりしない場合や、中央の被写体にピントを合わせて撮影したため周辺の物体がボケてしまう場合があります。画像を見て、「失敗」と思う前にCAMEDIA Master1.11のシャープネスを使ってみましょう。画像を全体的にシャープにして、ボケを和らげることができます。
ただし、完全にボケを取り除くことはできません。

操作方法

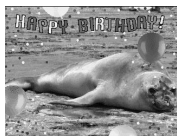
1 **加工したい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。**
選択した画像が表示されます。

2 **メニューバーの[画像(I)]→[フィルタ(F)]→[シャープネス(S)]を選択します。**

3 **オリジナルと変更後を見ながら、シャープの度合をスライドバーを動かして指定するか、数値を1～9で入力します。**

4 **加工結果が良ければ、[OK]ボタンを押します。**

選択した画像がシャープになって表示されます。

テンプレートと合成する

撮影した画像をCAMEDIA Master1.11に収録されているテンプレートと合成することで、簡単にシールプリントのような画像を作ることができます。

＋
＝
操作方法

1 加工したい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックします。
選択した画像が表示されます。

2 **メニューバーの[画像(I)] → [テンプレート合成(S)]を選択します。**

合成のウィンドウが表示されます。

3 **合成するテンプレートを選択し、[適用]ボタンを押します。**
合成されたサンプル画像が表示されます。

4 **表示された画像で良ければ、[OK]ボタンを押します。**
合成された画像が表示されます。

以上の機能の他にも多彩な加工機能があります。CAMEDIA Master1.11の各機能については、CAMEDIA Master1.11のオンラインヘルプをご覧ください。

6

付録

用語集

あ

ISO感度

銀塩写真のフィルムの光に対する感光度（感度）の強さを示すデータです。国際標準化機構（ISO）の規格で決められたISO感度が使われています。通常「ISO 100」のように表記します。
数値が大きくなるほど、光に対する感光度が強くなります。
デジタルカメラも、銀塩写真に準じてISO感度を使います。
C-2500Lでは100／200／400から選択できます。

赤目現象

目の瞳孔が開いているような暗い部屋で、フラッシュ撮影をすると、瞳孔を通して網膜に反射した光で瞳孔が赤く発色（網膜の血管が見える）する現象。レンズ光軸とフラッシュの距離が短い場合に特に多く発生し、明るい場所では起きにくくなります。C-2500Lの「赤目軽減」または外部フラッシュを使うと、赤目現象を軽減することができます。

色温度

光源の色を表示するための指標。単位はK（ケルビン＝絶対温度の単位）で表わします。
物体を加熱して温度が上がると、次第に赤→オレンジ→黄色→白→青白のように発光する色が変わってきます。このとき発光している物体に色と温度の関係を示しているものが色温度です。太陽光（表面温度6000 K）などは実際の温度と光の関係が一致していますが、蛍光灯の場合、人間には4200 Kの温度の物と同等に見えるため4200 Kの表示がされる場合があります。

EV（イーブイ）

エクスポージャ・ヴァリュー（Exposure Value＝露出値）の略。
EV値とは、絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときをEV0としています。絞りを1段絞る、またはシャッター速度を1段速くするごとに数値が1ずつ増加します。逆の場合はマイナスされます。また、EVは明るさとISO感度でも表す事ができ、ISO感度が2倍になると、1EV増加し、1/2になると1EV減少します。

AE（エーイー）
Automatic Exposure＝自動露出の略。
カメラ内蔵の露出計で自動的に露出を決めて撮影を行います。
C-2500Lでは絞り値を先に決定する絞り優先AEと、絞り、シャッタースピードをカメラに任せるプログラムAEがあります。

Aモード
絞り（アパチャー）優先AEのこと。絞り値をユーザが決め、決めた絞り値を優先させ、カメラがシャッタースピードを変化させ、適正露出を得ます。

Mモード
マニュアル露出撮影モード。シャッタースピードや絞りなどを設定して、Pモードで撮影するよりも独創性の高い撮影をすることができます。

付録

か

クオリティ
画質のことを表わします。C-2500Lでは、画像の圧縮率と記録画素数の異なる、使いやすい「SQ」／「HQ」／「SHQ」の3種類で表わしています。

合焦
ピント合わせを行って、被写体にピントが合った状態。

コンパクトフラッシュ
小型のフラッシュメモリカード。記録容量は2MBからあります。

コンパクトフラッシュアダプタ
コンパクトフラッシュに保存してある画像をパソコンに読み込むためのアダプタ。アダプタにコンパクトフラッシュを挿入し、PCカードスロットに挿入してパソコン上に画像を読み込みます。

さ

シャープネス
画像の、輪郭の鮮明さのことです。鮮鋭度ともいいます。C-2500Lでは、観賞に適したシャープが標準になっています。

JPEG (ジェイペグ)
カラー静止画像の圧縮方式。
C-2500Lで撮影した画像データもJPEGの形式でスマートメディアやコンパクトフラッシュに記録されます。
スマートメディアやコンパクトフラッシュに記録されている画像データはグラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

絞り
光量を調節する機構。絞り全開の状態を開放絞り、最も絞った状態を最小絞りといいます。絞りを変化させ、ボケを利用した遠近感表現をすることができます。

スポット測光
被写体のごく一部を測光する測光方法です。コントラスト（明暗差）の大きい被写体や特定の部分だけを測光するのに適しています。
C-2500Lでは、ファインダー内のオートフォーカスマークの範囲内を測光します。

スマートメディア
フラッシュメモリをベースにした、厚さ0.76mmの記録用メディア。記録容量は2MBからあります。3V（3.3V）用と5V用があり、C-2500Lでは3V（3.3V）用を使用しています。

接写（マクロ）撮影
被写体に接近して撮影する方法の総称。C-2500Lでは「マクロ」（30cm～60cm）や「スーパーマクロ」（2cm～60cm）などの機能を使うことによって撮影することができます。

た

中央重点測光

画面中央部分の被写体を中心に広い範囲で測光する測光方法。
通常の撮影に適していますが、画面の中に極端に明るい所や暗い所があると、全体の露出が、そちらに影響される欠点があります。

TIFF（ティフ）

モノクロからカラーまでの画像データを保存するためのフォーマット。
スキャナ用のアプリケーションやグラフィックス用のアプリケーションで扱うことができます。
C-2500Lでは非圧縮の画像を保存するのに使用しています。

トリミング

撮影した画像を好きな形にカットしたり、不要な部分をカットして体裁を整えること。

は

ＰＣカードアダプタ

スマートメディアやコンパクトフラッシュに保存してある画像をパソコンに読み込むためのアダプタ。
アダプタにスマートメディアやコンパクトフラッシュを挿入し、ＰＣカードスロットに挿入してパソコン上に画像を読み込みます。

Ｐモード

プログラムＡＥモードのこと。
絞り、シャッタースピードともにカメラが決める露出制御モード。

ファインダー

撮影範囲を確認するための装置。

フォーカス

焦点のこと。ピントを合わせることもフォーカスといいます。

フォーマット

① 画像や文書の形式。C-2500Lの画像の形式はJPEG/TIFF。
② 初期化のこと。C-2500Lではスマートメディアやコンパクトフラッシュを初期化することをフォーマットとしています。

ブラウザ

インターネット閲覧ソフト。代表的なものはNetscape Communicator、Microsoft Internet Explorer。
撮影した画像をブラウザに表示して見ることもできます。

FlashPath（フラッシュパス）

スマートメディアに保存してある画像をパソコンに読み込むための3.5インチフロッピー型のアダプタ。
FlashPathにスマートメディアを挿入し、3.5インチフロッピーディスクドライブに挿入してパソコン上に画像を読み込みます。

ま

マクロ（接写）

接写のこと。（P.72）

マニュアルフォーカス

手動でピントを合わせること。C-2500Lでは[FOCUS]ボタンを押してマニュアルフォーカスモードで距離を設定します。

ら

露出

シャッタースピードで時間、絞りで光量を設定して光を与えること。

露出補正

AEで決まった露出を変化させ、補正すること。
露出を増すだけではなく減らすこともあります。増す場合をプラス補正、減らす場合をマイナス補正といいます。

Q & A

Q 電池はどのくらいもちますか？

A 電池寿命は電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。同梱のニッケル水素電池（B-02）を完全に充電した後では次の表のようになりますが、この値はあくまで参考値であり保証ではありません。

同梱ニッケル水素電池（B-02）の電池寿命

	条件	撮影／オート撮影
撮影枚数	①	約150枚
再生時間	②	約60分

使用条件

①2枚連続撮影～10分放置～2枚連続撮影～10分放置の繰り返し。（常温25℃）、フラッシュ発光50％、各撮影につきズーム1往復、（PLAYモードの再生、印刷、PCとの通信無し。）

②自動再生モードによる連続再生、オートパワーオフ直後にパワーオンして、再度自動再生の繰り返し。

※PCとの通信はACアダプタ（C-6AC/C-7AC）のご使用をおすすめします。

※以下の条件では撮影をしなくても電力を消費しており、撮影可能枚数が減少することがあります。

・Pモード／Aモード／Mモードでシャッターボタンの半押しをして、オートフォーカス動作を繰り返す。
・ズーム動作を繰り返す。
・PLAYモードで長時間、液晶モニタを点灯する。
・PCとの通信時。

Q 画像データに記憶される日付が正しくないのですが？

A 出荷時に日付調整がなされていませんので、同梱のリチウムコイン電池を装着した後、日付の設定をしてください。また、単3電池とコイン電池を同時に抜き取ると、日付がリセットされてしまうのでご注意ください。

Q 液晶モニタが汚れてしまったのですが？

A 液晶モニタが汚れたときはクリーニングペーパーで軽く拭くようにしてください。

Q 撮影時のメニューでたくさん設定して分からなくなってしまったのですが？

A 撮影に関する設定をリセットしてから、設定しなおすことをおすすめします。（P.131）

Q フラッシュを使用し、人物撮影をしたら目が赤く写ってしまったのですが?

A どのカメラでもフラッシュを使用した人物撮影では目が赤く写ることがあります。これは網膜がフラッシュの光を反射するために起こる現象ですが、個人差が大きく、また周囲の明暗など撮影条件によっても異なります。一般的には東洋人は出にくく、西洋人は出やすい傾向にあります。赤目軽減発光モードを使用することにより、発生頻度を大幅に軽減します。

Q フードは取り付けられますか。

A 別売のステップアップリングを使って市販の55mmフードが取り付けられます。（WIDE端で撮影するとケラれることがあります）市販の43mmフードでは画面がケラれることがあります。

Q カメラの保管はどうすれば良いのですか。

A カメラはホコリ、湿気、塩分を嫌います。よく拭いて乾燥させて、保管してください。海辺で使ったあとは、真水に浸した布を固く絞ってふき取ると良いでしょう。防虫剤の使用は避けてください。長期保管の場合は電池を取り除いてください。

Q 外部フラッシュは取り付けられますか。

A 取り付けられます。詳しくは『市販の外部フラッシュを接続する』（P.157）を参照してください。

エラーコード表

C-2500Lでは各種の警告をエラーコードにて表示します。（コントロールパネルの表示は点滅します。）

コントロールパネル	液晶表示（PLAYモードのみ）	エラー内容	対応
-0-		カードカバーが開いています。	カードを入れて、カードカバーを閉じてください。
!-E-（あるいはシャッタースピード表示部に4桁のコード）	CARD ERROR	撮影・再生・消去をすることはできません。	カードが汚れている場合はクリーニングペーパーで拭いてから再度カードを差し込むか、カードをフォーマットしてください。それでも直らない場合は、このカードを使用することはできません。
!---	NO CARD	選択側のカードが入っていません。	・カードを入れてください。 ・SM/CFを切り替えてください。
!-F-	UNFORMATTED CARD	カードがフォーマットされていないか、あるいは異常です。	カードをフォーマットしてください。この場合、カードに記録されている情報は全て失われます。
!-P-	WRITE-PROTECT	カードにライトプロテクトシールが貼ってあるか、フォルダにRead only設定がされているか、または再生専用のカードのため、撮影・消去・初期化をすることができません。	ライトプロテクトシールをはがすか、再生専用の設定を解除してください。それでも直らない場合は、カードに何らかの異常が発生していますので、画像をパソコンなどに転送してから、カードをフォーマットしてください。
!000	NO PICTURE	記録画像がないため、再生できません。	撮影画像の入ったカードを入れてください。
!　0	（表示なし）	撮影可能枚数が0のため、撮影できません。 ※（P.190）	カードを交換するか、不要なコマの消去を行うか、画像をパソコンなどに転送してから、カードの全コマを消去してください。

コントロールパネル	液晶表示(PLAYモードのみ)	エラー内容	対応
	CARD FULL	カードの残り容量がなくなりました。 ※	カードを交換するか、画像をパソコンなどに転送してからカード内の画像を消去してください。
-H-	(表示なし)	カメラの内部が異常に過熱しています。	時間をおいてから電源を入れなおしてください。
	CAN NOT OPEN FILE	C-2500Lでは開くことができない画像です。 または、選択したコマの再生動作の失敗です。他の操作は受け付けます。	他のデジタルカメラで撮影した画像は、撮影したデジタルカメラで再生してください。あるいは、カードが汚れている場合はクリーニングペーパーで拭いてから再度カードを差し込むか、カードをフォーマットしてください。それでも直らない場合は、このカードを使用することはできません。

※この場合の他、以下の場合があります。

・DCIMディレクトリの999OLYMPフォルダの中にPxxx9999.jpg(またはPxxx9999.tif)が存在する場合。(P.126を参照)

・プリント予約を行なう時に、カード上に予約ファイルを作成、または予約の変更を行なえるだけの空き容量がない場合。(対応は上記の場合と同じです)

付録

・スマートメディアの場合、何らかのカードエラーが発生した場合には一旦カードをカメラから取り出して再度装填してみてください。それでもエラーが解消されない場合には前ページ対応を取るようにしてください。コンパクトフラッシュの場合は、何らかのカードエラーが発生した場合にはカードが奥まで差し込まれていない可能性がありますので、一旦カード蓋を開けてカードを差し込み直してください。それでもエラーが解消されない場合には前ページ対応を取るようにしてください。

・スマートメディアとコンパクトフラッシュのクラスタサイズの違いにより、同じ容量のスマートメディアとコンパクトフラッシュで全コピーを行なう時には次に示すようなことが発生する場合があります。　一方のカードに残容量がなくなるまで画像ファイルを記録し、他方は空の状態として、画像ファイルが記録されているカードから、空のカード（コピー先カード）へALL COPYを実施すると"CARD FULL"表示がされて、全コピー操作が実行できない時があります。この場合はコピー先カードをさらに容量の大きな別のカードに入れ替えてから全コピー処理を行なってください。

・スマートメディアとコンパクトフラッシュのクラスタサイズの違いにより、同じサイズのスマートメディアとコンパクトフラッシュを装填し、両方のカードをフォーマットした場合、撮影可能枚数はスマートメディアとコンパクトフラッシュとで異なることがあります。
また、コンパクトフラッシュは表記されているサイズが同じものでも実際のサイズに若干の差があるために、撮影可能枚数が異なることがあります。

修理に出す前にお確かめください

操作上のトラブル

こんなときには

カメラが動かない。

原因	こうしましょう	参照ページ
①OFF状態になっている。	①パワーボタンを押して電源を入れて下さい。	P.33
②電池の向きが正しくない。	②電池を正しく入れ直してください。	P.24
③電池がない。	③新しい電池を入れてください。	P.24
④寒さで電池の性能が一時的に低下した。	④新しい電池をポケットなどで暖めてから使用してください。	P.201

こんなときには

シャッターボタンを押しても撮影ができない。

原因	こうしましょう	参照ページ
①カードの容量がいっぱいになった。	①カードの交換を行うか、不要なコマの消去を行うか、画像をパソコンなどに転送し、全コマ消去を行ってください。	P.30、67 171
②撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	②電池を新品と交換してください。	P.24
③電池残量が少なくなった。	③電池を交換してください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P.24
④オートフォーカス範囲外、または苦手な被写体である。	④被写体距離を確認して、マクロモード／通常モードを切り替えてください。または、「オートフォーカスが苦手な被写体」を参照してください。	P.44、72
⑤メモリゲージが一杯になった。	⑤メモリゲージに空きが出るまでお待ちください。	P.42
⑥内蔵フラッシュが充電中である。	⑥オレンジランプの点滅が消灯に変わるまでお待ちください。	P.49
⑦カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない。	⑦新しいカードを入れて下さい。	P.30
⑧モードが、▶ ⎙ ⊖になっている。	⑧「P」、「A」、または「M」にしてください。	P.39

こんなときには

液晶モニタ上で再生ができない。

原因	こうしましょう	参照ページ
①電源が入っていない。	①パワーボタンを押してください。	P.33
② [▶] モードになっていない。	②モード選択ダイヤルを [▶] にしてください。	P.39
③カードに何も記録されていない。	③コントロールパネルをチェックしてください。	P.20

こんなときには

内蔵フラッシュが発光しない。

原因		参照ページ
①フラッシュが出ていない。	①フラッシュポップアップボタンを押して、フラッシュを上げてください。	P.49
②明るい被写体である。	②フラッシュを強制発光させたい場合は、強制発光モードを選択してください。	P.55
③フラッシュを上げた状態でオレンジランプの点滅が50秒以上つづいている場合はフラッシュの故障です。	③修理に出してください。	P.20

こんなときには

液晶モニタが見にくい。

原因	こうしましょう	参照ページ
①輝度の設定がおかしい。	①液晶モニタ設定で調節してください。	P.139
②太陽光の下である。	②太陽の光を手などでさえぎってください。	
③液晶モニタが壊れている。	③修理に出してください。	P.20

こんなときには		
パソコンとつないだとき、データ転送中にエラーメッセージが出る。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①ケーブルが正しく接続されていない。	①正しく接続されていることを確認してください。	P.168
②カメラの電源が切れている。	②カメラの電源を入れて下さい。	P.33
③電池がない。	③新しい電池を入れるか、ACアダプタ(別売)をお使いください。	P.24、26
④パソコンのシリアルポートが正しく設定されていない。	④パソコンでシリアルポートが正しく設定されていることを確認してください。	P.168
⑤画像転送速度が正しく設定されていない。	⑤パソコンで転送速度が正しく設定されていることを確認してください。	P.167

画像の出来が良くない場合

こんなときには		
ピントの合っていない写真ができた。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①オートフォーカスの苦手な被写体だった。	①「オートフォーカスの苦手な被写体について」を参照してください。	P.44
②シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった。（カメラのぶれ）	②カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P.36
③ピントを合わせたいものが、オートフォーカスマークからずれてしまった。	③ピントを合わせたいものを画面中央にもってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P.46
④レンズが汚れていた。	④レンズをきれいにしてください。	
⑤フォーカスモードが違っていた。	⑤2cm～0.6mに被写体がある場合はスーパーマクロまたはマクロモードで撮影してください。	P.72、73
⑥セルフタイマー撮影で、カメラの直前に立ってシャッターボタンを押した。	⑥カメラの前に立たず、ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P.58
⑦クイックフォーカスで被写体距離を確認せずに撮影した。	⑦クイックフォーカスの合焦距離範囲で撮影してください。	P.113

こんなときには		
できあがった画像が明るすぎる。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュモードが強制発光になっていたために、フラッシュの必要ないシーンでフラッシュを発光してしまった。	①強制発光以外のフラッシュモードを選んでください。	P.50
②高輝度の被写体が画面に入っていた。	②露出補正をするか、高輝度の被写体を画面から外して撮影してください。	P.81
③低輝度の被写体が中央部にあった。	③スポット測光を使用し、露出を合わせたい被写体で測光してください。	P.80

こんなときには		
できあがった画像が暗すぎる。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュの必要なシーンでフラッシュを使用しなかった。	①フラッシュを上げて、フラッシュモードを強制OFF以外にしてください。	P.50
②低輝度の被写体が画面に入っていた。	②露出補正をするか、低輝度の被写体を画面から外して撮影してください。	P.81
③高輝度の被写体が中央部にあった。	③スポット測光を使用し、露出を合わせたい被写体で測光してください。	P.80

こんなときには		
写真の色がおかしい		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①照明の色が影響した。	①フラッシュモードを強制発光にセットして撮影してください。	P.55
②被写体に白い部分がなかった。	②画面内に白い被写体を入れて撮影するか、ホワイトバランスで色温度を選択してください。	P.104
③ホワイトバランスで色温度の設定を間違えた。	③色温度を設定しなおしてください。	P.104

こんなときには		
画像の一部が欠けてしまった。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①レンズに指やストラップがかかってしまった。	①カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気を付けてください。	P.36

別売品のご案内

●専用外部フラッシュ（FL-40）

●パソコン接続キット（C-6KP）

・Photo Deluxe（Macintosh/Windows 95/98）
・CAMEDIA Master1.11（Macintosh、Windows 95/98/NT4.0用）
・パソコン接続用ケーブル（DOS/V用）
・変換アダプタ（Macintosh用／PC-98用）
＊PC-98ノート（14ピン）の場合は別途、変換アダプタ（PC-9821N-K04）が必要です。

●スマートメディア（8MB/16MB/32MB/64MB）

●プリンタ（P-330/P330N）

●ACアダプタ（C-6AC/C-7AC）

●カメラケース（CS-2500）

●ステップアップリング

・55mmフィルター取付用（SUR4355）

●コンバージョンレンズ

・ワイドコンバージョンレンズ（WCON-08）
・マクロコンバージョンレンズ（MCON-40）
・テレコンバージョンレンズ（TCON-14）

●リモコン（RM-1）

●ニッケル水素電池4本セット（B-02 4P）

●PCカードアダプタ（MA-2）

＊64MBスマートメディアまで対応

●フロッピーディスクアダプタFlashPath(MAFP-2)

＊64MBスマートメディアまで対応
＊DOS/V（Windows 95/98/NT4.0）
NEC PC9821（Windows 95（OSR以降）／98）
POWER MAC（漢字Talk 7.5.1～Mac OS 8.6）

●スマートメディア／リーダ・ライタ（MAUSB-2）

注意

・FlashPathをMacintoshで使用した場合、画像ファイルはリードオンリーになります。
・46mmフィルター取付用ステップアップリング（SUR4346）を使用すると画面がけられることがあります。

アフターサービスについて

- 保証書はお買上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買上げ日」などの記入されたものをお受け取りください。記入もれがあった場合は、ただちにお買上げの販売店へお申し出ください。また、保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買上げの販売店、または裏表紙の当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書などにしたがったお取り扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理などについては原則として有料となります。また運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 当カメラの補修用性能部品は製造打ち切り後5年間を目安に当社では保有しております。したがって、本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店または、お近くの当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失など）については補償しかねます。

主な仕様

形式	：デジタルカメラ（記録・再生型）
記録方式	：デジタル記録、JPEG、DCF（Design rule for Camera File system）、TIFF（非圧縮）、DPOF対応
記録媒体	：3V（3.3V）スマートメディア2MB、4MB、8MB、16MB、32MB、64MB／コンパクトフラッシュ96MB
記録コマ数	：13枚以上（HQ/8MBカード）
消去	：1コマ消去、全コマ消去
撮像素子	：2/3インチ原色フィルタ 250万画素（総画素数）
記録画素数	：1712×1368ピクセル（SHQ/HQモード） 1280×1024／640×512ピクセル（SQモード）
ホワイトバランス	：TTLフルオート／マニュアル6段階／ワンタッチ
レンズ	：オリンパスレンズ9.2～28mm、F2.8～3.9、7群7枚（35mmフィルム換算36mm～110mm相当）
フィルタ径	：43mm
測光方式	：撮像素子によるTTL中央重点測光方式、スポット測光
露出制御方式	：プログラム自動露出／マニュアル露出
絞り	：W：F2.8、F5.6/T：F3.9、F7.8
シャッター	：1/2～1/10000秒（A/Pモード） 8秒～1/10000秒（Mモード）
露出補正	：±2EV（1/3EVステップ）
撮影範囲（レンズ正面から）	
通常モード	：0.6m～∞
マクロモード	：0.3m～0.6m
スーパーマクロモード	：約2cm～60cm（WIDE） 約0.3m～0.6m（TELE）
クイックフォーカス／マニュアルフォーカス	：0.3m、0.35m、0.4m、0.5m、0.6m、0.8m、1m、1.2m

1.5m、2m、2.5m、3.5m、5m、8m、15m、∞のいずれかを選択可

ファインダー　：TTL一眼レフレックス方式（オートフォーカスマーク付）、視野率95％

液晶モニタ　：1.8インチTFTカラー液晶
再生表示用 1コマ表示、インデックス表示、拡大表示

モニタ画素数　：約122,000画素

フラッシュ充電時間　：約7秒（常温時、新品電池使用）

フラッシュ撮影範囲（レンズ前面から）
：WIDE 0.3m～3.6m／TELE 0.3m～2.5m（ISO 100時）

フラッシュモード　：オート発光（低輝度時自動発光、逆光時自動発光）、赤目軽減発光、強制発光、発光禁止

オートフォーカス　：TTL方式AF

検出方式　：コントラスト検出方式／焦点調節範囲：0.02m～∞（レンズ前面から）

AFイルミネーター有効距離の目安
：60cm～3m

セルフタイマー　：作動時間12秒

外部コネクタ　：DC入力端子、データ入出力端子（RS-232C）、ビデオ出力端子

日付・時刻　：画像ファイル情報内に記録
情報表示および専用プリンタで日付時刻印刷可能

自動カレンダー機能　：2030年まで自動修正

プリント予約　：DPOF準拠（枚数設定、インデックス設定、日付時刻設定）

カレンダー用電源　：3Vリチウムコイン電池（CR2025）×1

付録

使用環境

温度	：０～４０℃（動作時）／－２０～６０℃（保存時）
湿度	：３０～９０％（動作時）／１０～９０％（保存時）（結露しないこと）
電源	：単３ニッケル水素電池、ニッカド電池またはアルカリ電池４本（単３マンガン電池、リチウム電池は使用できません） ＡＣアダプタ（C-6ＡＣ/C-7ＡＣ）
大きさ	：幅１０９.５ｍｍ×高さ８０.５ｍｍ×長さ１２９ｍｍ（突起部含まず）
質量	：４９０ｇ（カード／電池別）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

札　幌……………… 011-231-2338
仙　台……………… 022-218-8437
東　京（八王子）…… 0426-42-7499
名古屋……………… 052-201-9585
大　阪……………… 06-6252-0506
広　島……………… 082-222-0808
福　岡……………… 092-724-8215

※上記のアクセスポイントまで電話をかけていただければ、オリンパスカスタマーサポートセンタに転送されます。アクセスポイントまでの電話料金はお客様のご負担となりますので、ご了承ください。

営業時間　10：00～17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jpでデジタルカメラ及び関連製品の技術提供をしております。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休みます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京 〒101-0052 千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル（オリンパスプラザ内）…Tel. 03(3292)1931
札　幌 〒060-0034 札幌市中央区北4条東1丁目2の3　札幌フコク生命第2ビル……Tel. 011(231)2320
仙　台 〒981-3133 仙台市泉区中央1丁目13-4 泉エクセルビル3F……………………Tel. 022(218)8421
新　潟 〒950-0087 新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル……………………Tel. 025(245)7337
松　本 〒390-0815 松本市深志1の2の11　松本昭和ビル………………………………Tel. 0263(36)5331
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル………………Tel. 052(201)9571
金　沢 〒920-0961 金沢市香林坊1の2の24　千代田生命金沢ビル……………………Tel. 076(262)8257
大　阪 〒542-0081 大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター……Tel. 06(6252)6991
高　松 〒760-0007 高松市中央町11の11　高松大林ビル………………………………Tel. 087(834)6166
広　島 〒730-0013 広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル………………Tel. 082(228)3821
福　岡 〒810-0001 福岡市中央区天神1の14の1　日本生命福岡ビル…………………Tel. 092(761)4466
鹿児島 〒892-0846 鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル…………………Tel. 099(225)1105
沖　縄 〒900-0015 那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル…………………………Tel. 098(864)5396

VT0656-2　　0300 2MM